

日本薬学会

大学院生および博士取得者のための

キャリアデザインワークショップ

「研究マインドを活かすキャリアについて
議論し、将来の夢の実現につなげよう！」

報告書

2024年1月



目 次

	ページ
開催の経緯と概要	1
プログラム	3
参加者グループ分けおよび運営スタッフ・オブザーバー	5
「趣旨説明」原稿	7
セッション報告	
第一部「学位取得と将来の夢」	
作業説明	15
第二部「研究に求められる資質・能力と環境」	
作業説明	20
グループ報告	23
第三部「将来の夢につなげるキャリアデザイン」	
作業説明	48
グループ報告	51
参加者アンケート結果	67
参加者印象記	77
2023 年度日本薬学会薬学教育委員会	90

大学院生および博士取得者のためのキャリアデザインワークショップ

「研究マインドを活かすキャリアについて議論し、将来の夢の実現につなげよう！」

開催の経緯と概要

日本薬学会薬学教育委員会では、2011年度から「学習成果基盤型教育（Outcome-Based Education）に基づいて6年制薬学教育の学習成果を考える」と題した「薬学教育者のためのアドバンスワークショップ」を開催し、2015年度からは「若手薬学教育者のためのアドバンスワークショップ」と名称変更し、2019年度まで計9回にわたって、全国から集まった大学教員や実務実習指導薬剤師の間で学習成果基盤型教育についての情報を共有してきた。

近年、大学院博士課程および博士後期課程への進学者が減少しており、学術研究を推進する博士人材の不足が懸念されている。そこで、日本薬学会の定款第3条にある「薬学に関する学術の進歩および普及をはかり、薬学関係者・会員の研究成果の発表および研修をする機会を提供し、もって学術文化の発展に寄与することを目的とする」に基づき、今後の学術研究の進歩を担う若手人材の育成に資する活動として、2022年11月に「学位取得者のキャリアデザインに関するワークショップ」を開催した。このワークショップの継続活動の一環として、今年度は「大学院生および博士取得者のためのキャリアデザインに関するワークショップ」を企画し、テーマとして「研究マインドを活かすキャリアについて議論し、将来の夢の実現につなげよう！」を掲げた。博士取得（予定も含む）者の多くは、高度な学術的知識や問題解決能力を有しているが、新たなキャリアへの移行や進路選択においては、種々の課題に直面することもある。本ワークショップでは、参加者が新たなキャリアへの挑戦において自信を持って立ち向かい、将来の夢の実現につなげる一助になることを目的とした。すなわち、本ワークショップのテーマに積極的に取り組み、学問領域や大学・職場の枠組みを越えて、学術研究やキャリアデザインについて意見交換することで、新たなキャリアの扉が開かれることを期待したものである。

本ワークショップは2023年11月12日（日）9:00～17:00にオンライン（zoom）開催され、博士取得から5年未満の若手教員11名に加えて、博士課程および博士後期課程に在籍する大学院生36名が参加した。第1部の「学位取得と将来の夢」では、アイスブレイクの目的も兼ねたWorld Caféの手法を用いて、「学位取得を目指した理由」、「大学院での研究活動について」、「将来の夢」について意見交換を行った。第2部の「研究に求められる資質・能力と環境」では、頭の中で自然に行っている思考を「見える化」することで、頭の働きを活性化し、発想を広げるための手法であるマインドマップ法を取り入れ、テーマに関する現状と問題点について議論した。第3部の「将来の夢につなげるキャリアデザイン」では、第2部で挙げられた問題点の解決法を議論するとともに、参加者各自のキャリアに関する将来展望についての意見交換を行なった。今回のワークショップにおいて、学術研究やキャリアデザインについて意見交換したことで、新たなキャリアの扉が開かれる契機となれば望外の喜びである。

最後にワークショップの開催に際して多大なるご理解とご尽力を頂いた日本薬学会薬学教育委員会委

員ならびに関係するすべての方々に心から感謝と敬意を表する次第である。

2024年1月

日本薬学会薬学教育委員会

大学院生および博士取得者のためのキャリアデザインワークショップ実行委員長

徳山尚吾

大学院生および博士取得者のためのキャリアデザインワークショップ
「研究マインドを活かすキャリアについて議論し、将来の夢の実現につなげよう！」

- ◆ 開催日：2023年11月12日（日）
- ◆ 主催：公益社団法人日本薬学会薬学教育委員会
- ◆ 参加者：大学院生および博士取得者（取得5年未満）
- ◆ 形式：オンライン開催（Zoom）
- ◆ 実行委員長：徳山尚吾
- ◆ タスクフォース：日本薬学会薬学教育委員会委員
- ◆ 協力者：第1回キャリアデザインWS参加者有志
- ◆ ICTサポート：木下 淳

<プログラム>

（P：全体会場、S：各グループ）

- 9：00 2P 開会あいさつ 司会進行：実行委員長 徳山尚吾
- ・ 日本薬学会会頭 岩瀬好治
 - ・ 文部科学省高等教育局医学教育課 薬学教育専門官 大久保正人
- 9：05 2P 趣旨説明 実行委員長 徳山尚吾

第1部「学位取得と将来の夢」

- 9：20 2P 作業説明（松永俊之）（10分）
- 9：30 2P World Café（60分）
- ラウンド1：「学位取得を目指した理由」
 - ラウンド2：「大学院での研究活動について」
 - ラウンド3：「将来の夢」

10：30 2P 休憩（10分）

第2部「研究に求められる資質・能力と環境」

- 10：40 2P 作業説明（前田和哉）（10分）
- 10：50 S Small Group Discussion（75分）

12:05 S 昼食 (55分)

13:00 P 発表・討論 (前田和哉、岸本成史) (40分)
(発表5分・質疑2分) ×4グループ、討論10分

13:40 2P 講演 (20分)
「博士号取得のすゝめ ～薬学の未来を切り拓くリーダーとなるために～」
日本薬学会 会頭 岩瀬好治

14:00 2P 休憩 (10分)

第3部 「将来の夢につなげるキャリアデザイン」

14:10 2P 作業説明 (辻 琢己) ((10分)

14:20 S Small Group Discussion (75分)

15:35 2P 休憩 (10分)

15:45 P 発表・討論 (辻 琢己、大野恵子) (40分)
(発表5分・質疑2分) ×4グループ、討論10分

16:25 S 振り返り (15分)

16:40 2P 全体まとめ (20分) 司会進行：実行委員長 徳山尚吾
・コメント
文部科学省高等教育局医学教育課 薬学教育専門官 大久保正人
・閉会あいさつ 日本薬学会 会頭 岩瀬好治
・連絡事項
報告書、印象記 (400字程度)、事後アンケート

17:00 閉会
参加者自由交流

大学院生および博士取得者のためのキャリアデザインワークショップ 参加者・グループ編成

全体チーフ：徳山尚吾、サブチーフ：中村明弘

ICTチーフ：木下 淳

1 チームTF：辻、高橋、前田、大野、鈴木

協力者：鹿山、志田

(1A) TF：辻、鹿山	
白井 美咲	東邦大学大学院
黒田 真太郎	金沢大学大学院
菅野 正幸	徳島大学大学院
吉岡 寿倫	東京理科大学大学院
湛増 里奈	安田女子大学大学院
篠内 良介	昭和大学薬学部

(1B) TF：高橋、志田	
山崎 瑞穂	神戸薬科大学大学院
苅谷 冬也	徳島文理大学大学院
大岡 央	静岡県立大学大学院
金井 智久	北里大学大学院
石井 宏剛	日本大学大学院
植山 由希子	大阪大学大学院薬学研究科

(1C) TF：前田、輪千	
山内 智暁	九州大学大学院
植村 逸平	北海道科学大学大学院
大野 拓巳	明治薬科大学大学院
山口 萌	広島国際大学大学院
丸尾 陽成	岡山大学大学院
西原 冨佳	同志社女子大学薬学部

(1D) TF：大野、鈴木	
今井 将嗣	鈴鹿医療科学大学医療薬学研究科
眞壁 一志	星薬科大学大学院
中尾 樹希	長崎大学大学院
福島 史也	東北大学大学院
益戸 智香子	武蔵野大学薬学部
山縣 涼太	東北医科薬科大学薬学部

2 チームTF：岸本、輪千、大山、松永、座間味

協力者：今、三宅、原、小林

(2A) TF：岸本、今	
山口 慎一郎	立命館大学大学院
白川 愛奈	熊本大学大学院
細見 健太	大阪医科薬科大学大学院
高田 春風	徳島大学大学院
進藤 つぐみ	北海道医療大学 薬学部

(2B) TF：大山、三宅	
藤井 明子	岐阜薬科大学大学院
徳永 希	広島大学大学院
川崎 みどり	同志社女子大学大学院
川久保 暢人	愛知学院大学大学院
兵頭 直	徳島文理大学香川薬学部
灘井 崇宜	神戸学院大学薬学部

(2C) TF：松永、原	
関根 美夢	昭和薬科大学大学院
泉 和弥	名古屋市立大学大学院
岩崎 絵理佳	帝京平成大学大学院
佐藤 圭恭	東京薬科大学大学院
石崎 厚	就実大学薬学部
高橋 一聡	千葉大学大学院園芸学研究院

(2D) TF：座間味、小林	
金子 寛	東京薬科大学大学院
砂川 大樹	高崎健康福祉大学大学院
小菅 周斗	富山大学大学院
仲道 公輔	慶應義塾大学大学院
岩本 佳幸	岩手医科大学大学院
橋本 佳奈	兵庫医科大学薬学部

運営スタッフ

実行委員	中村 明弘	昭和大学薬学部
	石田 竜弘	徳島大学大学院
	大野 恵子	明治薬科大学
	大山 要	長崎大学病院
	岸本 成史	昭和薬科大学
	木下 淳	兵庫医科大学
	座間味 義人	岡山大学病院
	鈴木 小夜	慶應義塾大学
	鈴木 匡	名古屋市立大学大学院
	高橋 秀依	東京理科大学
	武田 香陽子	北海道科学大学
	辻 琢己	摂南大学
	徳山 尚吾	神戸学院大学
	前田 和哉	北里大学
	松永 俊之	岐阜薬科大学
輪千 浩史	星薬科大学	
ワークショップ協力者 (2022 キャリアデザイン WS 参加者有志)	鹿山 将	東北大学大学院薬学研究科 薬理学分野
	志田 拓顕	順天堂大学
	今 理紗子	星薬科大学 生体分子薬理学研究室
	三宅 崇仁	京都大学大学院薬学研究科
	原 崇人	東邦大学薬学部
	小林 由希	BASF ジャパン株式会社
	志田 美春	株式会社 Co-LABO MAKER
	瀬山 翔史	東京薬科大学薬学部 臨床微生物学教室
孕石 梨愛	松山市急患医療センター	
事務局	吉松 賢太郎	日本薬学会事務局
	桃井 靖子	日本薬学会事務局

オブザーバー

会頭	岩淵 好治	東北大学大学院
担当理事	金井 求	東京大学大学院
	加藤 将夫	金沢大学大学院
招待者	大久保 正人	文部科学省高等教育局医学教育課
	織内 薫	文部科学省高等教育局医学教育課



趣旨説明原稿

大学院生および博士取得者のためのキャリア

デザインワークショップ

「研究マインドを活かすキャリアについて
議論し、将来の夢の実現につなげよう！」

日本薬学会薬学教育委員会主催

大学院生および博士取得者のための
キャリアデザインワークショップ

「研究マインドを活かすキャリアについて
議論し、将来の夢の実現につなげよう！」

開催日 : 2023年11月12日(日)

主催 : 公益社団法人 日本薬学会 薬学教育委員会

参加者 : 博士課程に在籍する大学院生(修士課程を除く) 36名
博士取得者(取得5年未満) 11名

形式 : オンライン開催(Zoom)

実行委員長: 徳山 尚吾

1

日本薬学会薬学教育委員会主催

大学院生および博士取得者のための
キャリアデザインワークショップ

「研究マインドを活かすキャリアについて
議論し、将来の夢の実現につなげよう！」

開会あいさつ

➤ 日本薬学会 会頭 岩淵好治
(東北大学大学院薬学研究科教授)

2

3

日本薬学会薬学教育委員会主催
大学院生および博士取得者のための
キャリアデザインワークショップ

「研究マインドを活かすキャリアについて
議論し、将来の夢の実現につなげよう！」

開会あいさつ

- ▶ 文部科学省高等教育局医学教育課
薬学教育専門官 大久保 正人

3

4

趣旨説明

- ▶ 大学院生および博士取得者のための
キャリアデザインワークショップ
実行委員長
徳山 尚吾 (神戸学院大学薬学部教授)

4

日本薬学会主催

5

薬学教育者ワークショップについて

2011年度から「薬学教育者のためのアドバンスワークショップ」が開始され、2014年度まで4回にわたって毎年実施

2015年度から「若手薬学教育者のためのアドバンスワークショップ」が開始され、2019年度まで5回にわたって毎年実施

5

日本薬学会薬学教育委員会主催

6

薬学教育者ワークショップについて

- 本学会は、薬学に関する学術の進歩および普及をはかり、薬学関係者・会員の研究成果の発表および研修をする機会を提供し、もって学術文化の発展に寄与することを目的とする（定款第3条）
- ワークショップのテーマを「**研究**」に変更
「薬学生の大学院進学促進」と「若手教員の教育研究活動のサポート」に取り組む

6

「学位取得者のキャリアデザインに関するワークショップ」 (2022年11月開催)

7

- 大学、医療機関および企業等で働く若手博士から、キャリアの現況やビジョン・ニーズ等を聞く
- 参加者：長井記念薬学研究奨励支援事業の採用者または全国学生ワークショップ参加者で博士取得者
- 「キャリアで感じる課題」：ロールモデルの不在
⇒ 「解決のアイデア」：自分たちがロールモデルとなる

7

大学院生および博士取得者のための キャリアデザインワークショップ

8

「研究マインドを活かすキャリアについて
議論し、将来の夢の実現につなげよう！」



8

大学院生および博士取得者のための キャリアデザインワークショップ

「研究マインドを活かすキャリアについて
議論し、将来の夢の実現につなげよう！」

博士取得（予定も含む）者の多くは、高度な学術的知識や問題解決能力を有しているが、新たなキャリアへの移行や進路選択においては、種々の課題に直面することもある。本ワークショップでは、参加の皆様が新たなキャリアへの挑戦において自信を持って立ち向かい、将来の夢の実現につながるための一助になることを目的としている。

大学院生および博士取得者のための キャリアデザインワークショップ

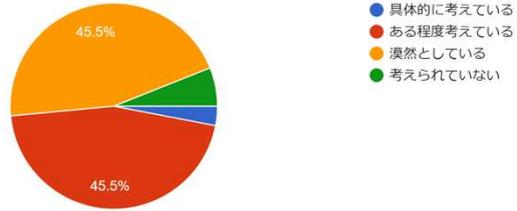
「研究マインドを活かすキャリアについて
議論し、将来の夢の実現につなげよう！」

本ワークショップのテーマに積極的に取り組み、学問領域や大学・職場の枠組みを越えて、学術研究やキャリアデザインについて意見交換することで、新たなキャリアの扉が開かれることを期待している。

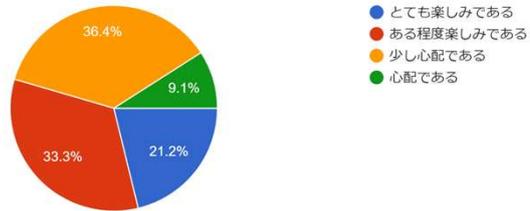
11

【大学院生】

【質問2】 将来のキャリアについて具体的に考えていますか。
33件の回答



【質問3】 これからのキャリアが楽しみですか？
33件の回答



11

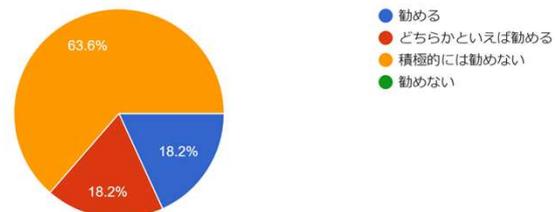
12

【博士(学位) 取得者】

【質問2】 ご自身のキャリアをどう評価されていますか。
11件の回答



【質問3】 ご自身のキャリアを後輩に勧めますか？
11件の回答



12

本日のプログラム

13

第1部 「学位取得と将来の夢」

9:20 作業説明、World Café

第2部「研究に求められる資質・能力と環境」

10:40 作業説明、Group Discussion

12:05 昼食

13:00 発表・討論

13:40 特別講演

第3部「将来の夢につなげるキャリアデザイン」

14:10 作業説明、Group Discussion

15:45 発表・討論

16:25 振り返り

16:40 全体まとめ・閉会あいさつ

17:00 閉会

17:00 自由交流

13

連絡事項

14

▶ 第二部・第三部の報告書（各担当者）およびワークショップ印象記の提出をお願いします。

▶ 締切日：12月4日（月）

▶ 提出先：日本薬学会事務局

▶ 本日17時からの自由交流タイムも楽しんでください。

14



セッション報告

第一部

「学位取得と将来の夢」

World Café

テーマ

- 1 私のキャリアデザイン
- 2 大学院での研究活動について
- 3 将来の夢

第一部



「私のキャリアデザイン」

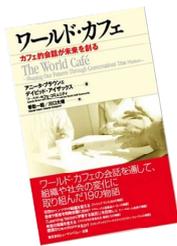
1

Ice Break

World Caf é



2



画期的な発想



3

World Caf é とは？



World Caf é はグループワークの一つのやり方です。

これから皆さんは、世界・時空を旅する「旅人」になります。旅人は、出会った場所で“おしゃべり”をして、また別の場所に旅立っていきます。今日は、旅をしながら3回のおしゃべりや落書きをします。

4

World Caf é では

たくさんの旅人と出会い、いろいろな人の話が聞けます。
(他花受粉)



新しい発想

5

World Cafeによろこそ

- ・皆さんは、ワークショップの時空を旅する「旅人」です。
- ・旅人は、出会った場所で“おしゃべり”をして、また別の場所に旅立っていきます。
- ・過去・現在・未来を旅して、3回のおしゃべりをします。
- ・今日の旅を思いっきり楽しんでください！



6

Café Open



- ・4-5名のグループで「おしゃべり」を行います。
- ・テーマごとにメンバーを入れ替えます。
- ・テーブル毎に 司会役の「テーブルマスター」がいます。
- ・1回のラウンドは15~20分で行います。ラウンドが終わると、旅人（お客）は別のテーブルに移動します。

Cafeではフリートークを楽しみましょう

7

World Cafeからのお願い

飲み物・お菓子の準備はセルフです

- 積極的に「おしゃべり」をしましょう。
- 話は短く簡潔に、1人1分以内でお願いします。
- それぞれの旅人の話に耳を傾けましょう。



8



Table Masterのお仕事



1. 各グループの「おしゃべり」が盛り上がるように工夫してください。
2. 第1ラウンドでは、指定されたテーマでの「おしゃべり」の司会をお願いします。
3. 第2ラウンド以降では、旅人の「自己紹介」の前に、テーブルマスターから「前のラウンド」で印象に残ったお話を1分で紹介して下さい。テーブル担当のタスクフォース・先輩が作成したメモも利用可能です。その後、そのラウンドのテーマの「おしゃべり」の司会をして下さい。

9

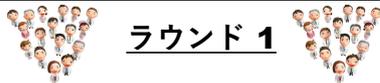
Table Master

テーブル番号	Table Master	テーブル番号	Table Master
1	白井 美咲	7	関根 美夢
2	山崎 瑞穂	8	金子 寛
3	山内 智暁	9	黒田 真太郎
4	今井 将嗣	10	苅谷 冬也
5	山口 慎一朗	11	植村 逸平
6	藤井 明子	12	眞壁 一志

※3回とも各テーブルでTable Master として対応をよろしくお願いいたします。



10



ラウンド 1

「私が学位取得を目指した」理由

- ご自分の理由を皆さんに説明して下さい。 **1分/1人**
- テーマについて、自由におしゃべりして下さい。 **終わりまで**

Café time : 20分

11

Table Master

テーブル番号	Table Master	テーブル番号	Table Master
1	白井 美咲	7	関根 美夢
2	山崎 瑞穂	8	金子 寛
3	山内 智暁	9	黒田 真太郎
4	今井 将嗣	10	苅谷 冬也
5	山口 慎一朗	11	植村 逸平
6	藤井 明子	12	眞壁 一志

※3回とも各テーブルでTable Master として対応をよろしくお願いいたします。



12

テーブル(ブレイクアウトルーム)移動のお願い

1. テーブル(ブレイクアウトルーム)へは、参加者自身で移動してください。
2. 12のテーブル(ブレイクアウトルーム)がありますので、3つのラウンドで重複しないように選択して移動してください。
3. 次に移動の順番ですが、**テーブルマスター(元のルームへ)**、**旅人**、**タスクフォース**の順で移動してください。

13

旅へ出発



新しい仲間との出会いを楽しんでください

14

時空の旅はいかがでしたか？
どんな旅人と出会いましたか？



15

ラウンド 2

「大学院での研究活動について」

- ラウンド1の話題をテーブルマスターから聞いて下さい。 **1分**
- 自己紹介を兼ねて「ラウンド1で印象に残ったこと」を紹介して下さい。 **1分/1人**
- 全員の紹介が終わったら、このテーマについておしゃべりして下さい。 **終わりまで**

Café time : 15分

16

テーブル(ブレイクアウトルーム)移動のお願い

1. テーブル(ブレイクアウトルーム)へは、参加者自身で移動してください。
2. 12のテーブル(ブレイクアウトルーム)がありますので、3つのラウンドで重複しないように選択して移動してください。
3. 次に移動の順番ですが、**テーブルマスター(担当のルームへ)**、**旅人**、**タスクフォース**の順で移動してください。

17

To the another world



新しい仲間との出会いを楽しんでください

18

2回目の世界の旅はいかがでしたか？



19

テーブル(ブレイクアウトルーム)移動のお願い

1. テーブル(ブレイクアウトルーム)へは、参加者自身で移動してください。
2. 12のテーブル(ブレイクアウトルーム)がありますので、3つのラウンドで重複しないように選択して移動してください。
3. 次に移動の順番ですが、**テーブルマスター(元のルームへ)**、**旅人**、**タスクフォース**の順で移動してください。

20

ラウンド 3

「将来の夢」

- ラウンド2の話題をテーブルマスターから聞いて下さい。 **1分**
- 「ラウンド2で印象に残ったこと」を紹介して下さい。 **1分/1人**
- 全員の紹介が終わったら、このテーマについておしゃべりして下さい。
終わりまで

Café time : 15分

21

To the next word



新しい仲間との出会いを楽しんでください

22

時空・世界の旅はいかがでしたか？



23



AM 10:40～ 第2部へ続く・・・
屈伸運動、お茶・お菓子を摂る等しっかり休憩してください^^

24



セッション報告

第二部

「研究に求められる資質・能力と環境」

大学院生および博士取得者のためのキャリアデザインワークショップ

公益社団法人
日本薬学会

第二部

「研究に求められる資質・能力と環境」

作業内容と進め方

1

公益社団法人
日本薬学会

第二部

「研究に求められる資質・能力と環境」

作業内容

ここでは、「研究」をやっていくにあたって必要だと皆さんが思う**資質・能力・環境・モチベーション**等を自由に語り合っただき、ツリーにまとめると共に、そこから得た**「気づき」と「研究を進めるにあたっての(外的)課題」**についてまとめてください。

2

公益社団法人
日本薬学会

第二部

「研究に求められる資質・能力と環境」

ツリーについて

マインドマップ:人が頭の中で自然に行っている思考を「見える化」することで、頭の働きを活性化し、発想を広げるための手法

主となる1つのトピックから出発+ツリー状に展開して階層が形成される

<https://www.pinterest.jp/pin/586030970253983262/>

<https://hsr-nara-j-abilities.com/2014/09/152/>

3

公益社団法人
日本薬学会

第二部

「研究に求められる資質・能力と環境」

ツリーについて

Googleスライド上に以下のような形で作成をしていただきます!

★プロダクトの例

★自由に連想したことをどんどん並べつつ、関連のある言葉を選んで繋いでみてください。あまり厳密に考えすぎず、直感でつながって結構です!

4

公益社団法人
日本薬学会

第二部

「研究に求められる資質・能力と環境」

SGDの進め方①

1. 簡単に自己紹介をして、お互いを知しましょう。
2. 司会・記録・発表・報告書の担当を決めてください。
3. 司会の進行に従って、まずは全員1人1人が、「研究」に対する**資質・能力・環境・モチベーション**等について自由に話してみてください。
(目安:15-20分)

5

公益社団法人
日本薬学会

第二部

「研究に求められる資質・能力と環境」

SGDの進め方②

4. 話に出てきたキーワードをツリーの真ん中の「研究」の枠に繋いでください。
5. それらを参照しながら、自由に発想を広げて話し合いをしながら、ツリーを広げていってください。(目安:40分)
6. 最後にツリーを見ながら、班の議論での「気づき」と「研究を進めるにあたっての(外的)課題」について話しあってみてください。

6


第二部
「研究に求められる資質・能力と環境」
タイムテーブル

↓ 10:50 ~ 12:05 Small Group Discussion
 ↑ 12:05 ~ 13:00 昼食
 (時間が足りない班は、昼食中も続けていただいて構いませんが、
 適宜休憩もとってくださいね。)
 ↓ 13:00 ~ 13:40 発表・討論
 各発表5分、Q&A2分+総合討論10分
 発表順:A→B→C→D



7


第二部
「研究に求められる資質・能力と環境」
発表・討論

13:00から
各グループ発表 5分+Q&A 2分
→総合討論 10分
 (スケジュールがタイトですので、**発表時間を**
守っていただきますようお願いいたします!)



8



セッション報告

第二部

「研究に求められる資質・能力と環境」

グループ報告書

第2部「研究に求められる資質・能力と環境」

グループ：1A

研究に求められる資質・能力・環境について

<コミュニケーション能力>先生方や研究室メンバーとディスカッション。学会などで他研究室の方とも交流し、研究に磨きをかけるために必要。他人に気軽に頼るときにも必要。

<文章力>資金獲得のためには申請書を書く必要がある。

<鈍感さ>なんでも流行りに飲まれないように自分の軸をしっかり持って研究する。

<発想力・協働力>発想力は研究を行う上で重要なのは言うまでもないが、一人では大きな研究はできないので協働力も必要。

<論理性・取捨選択>研究における無駄をなくす。

<設備・資金>研究するためには設備・資金が必要。

<ディスカッションが行いやすい環境>一人で根詰めないようにするために相談できる環境。

<責められていると感じない環境>学生が発言しやすい環境整備。

<その他>計画実行力、忍耐力、自己管理能力、問題解決力、決断力、後輩育成・指導力

ツリーに基づいた気づきと研究を進めるにあたっての課題

<気づき>

・資質と能力には共通部分が多く、資質は各人多かれ少なかれ持っており、博士課程ではその能力を引き出して育むことが求められる。

・決断力、問題解決能力、資金力、コミュニケーション能力、自己管理能力等は、研究機関の環境および仲間のサポート、問題解決するための努力が必要になってくると感じた。

・大学院生は時間の制約があるので常に逆算して動くことが大切と感じた。

・後輩育成・指導力は様々な能力に基づいて培われるが、最も重要なことはコミュニケーションであり、様々な場面で必要となる。

・環境を整備するために資金獲得を得る過程で発想力や文書力などの能力が求められる。

・資金を得る方法として、研究の無駄をなくし効率化する方法もある(→取捨選択)。

・忙殺されていると新しいアイデアが浮かばないことやミスに気付かないことがあるため文化的な時間を設けるのも大切だと思った。

<研究を進めるにあたっての課題>

・教員だけでなく大学院生自身もディスカッションしやすい・責められていると感じない環境作りに力を入れることで、次世代の研究者を輩出する(後輩育成)きっかけに繋がるのではないかと。

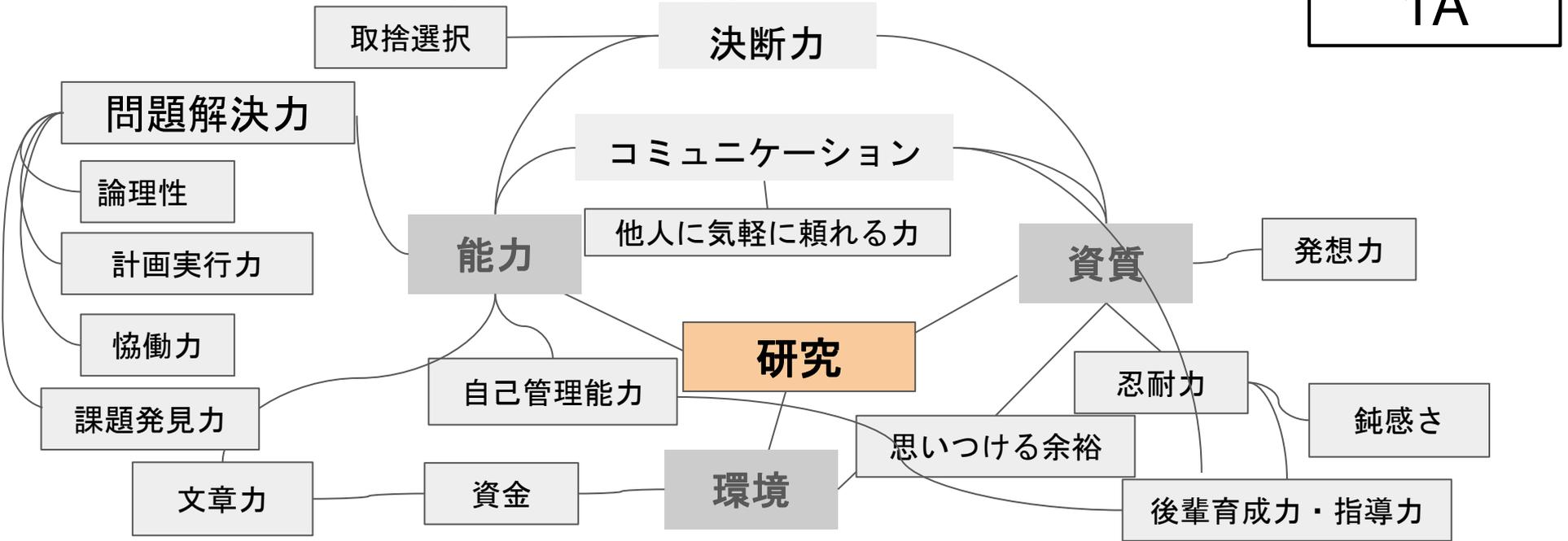
・課題発見力を培うために日頃から社会問題に対するアンテナを立てることが重要であるが、自分の研究の軸をもつことも大切。

・研究をするためにはどうしても資金が必要。

第2部 「研究に求められる資質・能力と環境」

研究に求められる資質・能力と環境 とは？

グループ
1A



研究室内の環境

- 責められていると感じない環境
- ディスカッションが行いやすい環境²⁵
- 切磋琢磨できる仲間
- 設備

研究室外の環境

- 私生活

第2部 「研究に求められる資質・能力と環境」 「気づき」と「研究を進めるにあたっての(外的)課題」

グループ
1A

「気づき」

- ・ 資質と能力には共通部分が多い。→資質は各人多かれ少なかれ持っていて、博士課程ではその能力を引き出して育むことが求められる。
- ・ 決断力、問題解決能力、資金力、コミュニケーション能力、自己管理能力等は、研究機関の環境および仲間のサポート、問題解決するための努力が必要になってくると感じた。
- ・ 大学院生は時間の制約があるので常に逆算して動くことが大切と感じた
- ・ 指導力は様々な能力に基づいて培われる。やはりどの場面においてもコミュニケーションが重要。
- ・ 資金獲得を経て、環境を整えるために能力が求められる(発想力、文章力など)。
- ・ 資金を得る方法として、研究の無駄をなくす(効率化する)方法もある。→取捨選択
- ・ 忙殺されていると新しいアイデアが浮かばなかったり、ミスに気付かないことがあるため文化的な時間を設けるのも大切だと思った。

「研究を進めるにあたっての(外的)課題」

- ・ 教員だけでなく大学院生自身もディスカッションしやすい・責められていると感じない環境作りに力を入れることで、次世代の研究者を輩出する(後輩育成)きっかけに繋がるのではないか。
- ・ 課題発見力を培うために日頃から社会問題に対するアンテナを立てることが重要。もちろん自分の研究の軸をもつことも大切。
- ・ なにをするにも金が必要→研究するための資金集め

第2部「研究に求められる資質・能力と環境」

グループ：1B

第2部では、研究に求められる資質・能力と環境についての議論を行なった。最初に各人が資質・能力と環境のそれぞれに関して必要だと感じていることを列挙していき、その後、挙げられた項目に関しての掘り下げを行なった。資質として探究心や粘り強さ、前向きな思考などが挙げられ、能力として説明能力、環境要因として研究資金や指導教員の豊富さが挙げられた。グループ1Bの特徴は、研究に求められる能力に関して挙げられた項目が説明能力のみであったということである。研究に必要な能力・技術よりも、資質、特に「考えることが好き」や「あきらめない粘り強さ」などの性格的な面が重要だと捉えていた。研究は試行錯誤の繰り返しであり、成果を出すにはそれなりの時間を要するため、いかに研究を続けられるか、思考を続けられるかが大切だということを、普段の研究活動で身をもって感じていることが、このような結果をもたらしたと思う。また、資金や人材面に関しても議論が進められた。資金面に関しては、研究資金の獲得に関してだけでなく、奨学金についても話し合いが行われた。博士課程において、生活費をどのように工面するかは大きな問題であり、研究活動にも影響を及ぼす。6年制薬学部からの進学者であれば、薬剤師として働き、生活費を稼ぐことは出来るが、研究に時間を割きたいというのが本音である。一方、薬剤師免許を持っていない博士課程学生は、高い時給のアルバイトが出来ず、さらに研究に当てられる時間が削られてしまうという現実がある。したがって、生活費に関しては、奨学金に頼っている学生も少なくない。しかしながら、給付型奨学金は少なく、博士課程進学の際の障壁の一因となっているのではという意見が挙げられた。研究資金面に関しては、ほとんど全員が資金不足を感じていた。研究資金獲得の難しさや研究室の資金状況がある程度わかっている博士課程学生だからこそ、高価な実験機材や試薬などの購入を教員に相談することにためらいを感じる。この解決のために、自身で研究資金の獲得を試みるが、工学部や理学部に比べて、薬学部ではそもそも大学院生が応募できる研究助成金が少ないという問題が挙げられた。人材に関しては、各研究室の指導教員の数の違いなどに関して議論が行われた。教員の数が多ければ、それだけ各学生の研究に対する指導が行き渡り、研究の方向性を大きく間違えることはないだろうという意見や、経験豊富な教員がいる場合、研究で行き詰まったり、問題が起きたりした場合に対応が可能であるという意見が挙げられた。一方、教員だけではなく、研究室に自分以外の博士課程学生がいることも重要だという意見が挙げられた。研究のことや将来のキャリアに関して気軽に話せる存在がいれば、研究のモチベーション向上に繋がるといった意見が挙げられた。

最後に、第2部の議題に対するグループ1Bの意見をまとめる。研究を行うに当たっては、精神的な面、特に探究心や粘り強さが最も重要であるという結論に至った。そして、これらを維持するためには、実験を十分に出来る資金や適切なアドバイスが出来る教員、互いに切磋琢磨しながら成長していける同期の存在といった研究環境が必要である。

第2部 「研究に求められる資質・能力と環境」

研究に求められる資質・能力と環境 とは？

外部以外からの研究費が潤沢な研究室もある

外部への受託で時間短縮

外部資金

指導教員

指導教員の多さ

研究が好きか

環境

能力

研究

資質

説明能力

あきらめない
粘り強さ

わくわくできるか
(探求心)

研究に対する態度
研究を好きでいられるか

考えることが好き

28 ポジティブ

コピーでフレーズを引用する
笑顔で説明

あこがれている対象を見つける

相手が何を求めているか意識する

短い文章を用意しておく

短いフレーズでまとめる

場数が解決する

研究成果を発表する
研究成果に対する愛着

飽きない
成長、前進を続ける、実感する

発見に対する喜び
成功体験

挑戦する環境がある
設備と教員

学会などでの外部からの刺激

第2部 「研究に求められる資質・能力と環境」 「気づき」と「研究を進めるにあたっての(外的)課題」

グループ
1B

気づき

- 研究に対するマインド、粘り強さが必要
- 研究費、人員、時間の少なさ
- 研究成果を出したい
- 研究能力の不足は気持ちでカバーできるのでは？
- リカバリーは経験と環境から

研究を進めるにあたっての課題

- 資金不足
- 学生への奨学金を増やすことで進学者も増える
- 薬学部において学生の申請できる奨学金が少ない
- 博士課程進学者を増やすことで研究に対するモチベーションを保つ
- 切磋琢磨して成長できる環境づくり

第2部「研究に求められる資質・能力と環境」

グループ：1C

当班では、研究に求められる資質や能力とその環境というテーマについて議論を開始した直後より資質・能力は個人の素質に由来する部分があることはもちろんのこと、問題解決能力や探究心という研究の基盤となる部分に、自身を取り巻く環境が大きな影響力を有しているのではないかという気づきを得た。

このことから、環境を中心に議論を活発に行うこととし、以下に具体的な意見を示す。

- ・他者とのつながりを有することで、研究内容のアウトプット・インプットが可能になる
- ・アウト/インプットによりさらに自身の研究に対しても多方面からのアプローチが可能になる
- ・アウトプット能力やコミュニケーション能力の向上が、所属研究室内で完結してしまいがちな人間関係、孤立感からの解放につながる
- ・アウトプット能力の向上により研究室の後進育成やこれからの薬学研究に必要となる人材の確保にもつながるのではないか
- ・研究者同士の交流の場があることで、研究能力や将来のビジョン、現在の課題についても相談することが可能になる
- ・環境が整うことで心身ともに健康になり、今後の薬学研究の発展に寄与することが可能になるなどの意見が挙げられた。

この議論を通して、大学院生および研究者の課題として「周囲との隔たりがある」という課題が浮彫となり、その要因は薬学教育と薬学研究のギャップではないかという結論に至った。薬学研究を行っていく中で、6年制薬学部では国家資格取得が目標になっていることが多く、教員や大学、国がどのような研究者を育成したい・必要としているのかが分かりづらいことも要因であるのではという声も挙げられた。学士課程においても、じっくりとどのような研究者になりたいか、そもそも研究者という道があるということも学部生に示す機会が少ないことも問題ではないか、また、臨床で活躍する薬剤師と薬学研究がどのようにつながるのかもイメージしにくいことも原因ではないかという意見もあった。

当班では、そのようなギャップを埋めるために必要なことについても議論を行い、様々な年代が研究に参画することで問題解決につながるのではという見解で一致した。キャリアを含めロールモデルの必要性や上下間、横とのつながりを有した人間関係の構築がこれらのギャップを埋めることを可能にするのではないだろうか。

第2部 「研究に求められる資質・能力と環境」 「気づき」と「研究を進めるにあたっての(外的)課題」

グループ
1C

- ・ **気づき**：問題解決能力や知識欲・探究心が研究には必要。
環境の影響が大きく、それが資質や能力にも影響している。
他者とのつながりを持つことで、多様な意見を持つことができる。
アウトプット能力、コミュニケーションの向上により、心身の健康や時間の有効活用がよりよい研究につながるのではないか。
- ・ **外的課題**：周囲とのへだたりが大きく、所属研究室のみで完結してしまうことが多い。
特に、院生同士や進学を目指す学部生との関わりや繋がりの場がない。
薬学教育と薬学研究とのギャップが大きい。
 - 国や教員はどのような薬剤師 / 研究者を求めているのか。
- ・ **外的課題への解決案**：**研究者年齢の多層化** 様々な年代が研究に参加すること
 - 高校生以下の学会参加のハードルを下げる(例：薬学会中四国支部 高校生オープン学会)
 - ロールモデルの作成について学部生の意見も取り入れる
 - 学部生の授業に臨床薬剤師の講義を多く取り入れる
 - ワークライフバランスを研究に携わる / 携わりたい方全員で考える会の実施
 - ☞ 若手薬学研究者の増加や研究志望の大学入学者の増加に寄与
 - ☞ 研究室個々の人員増加により研究者の心身を含めた環境改善が実現

第2部 「研究に求められる資質・能力と環境」

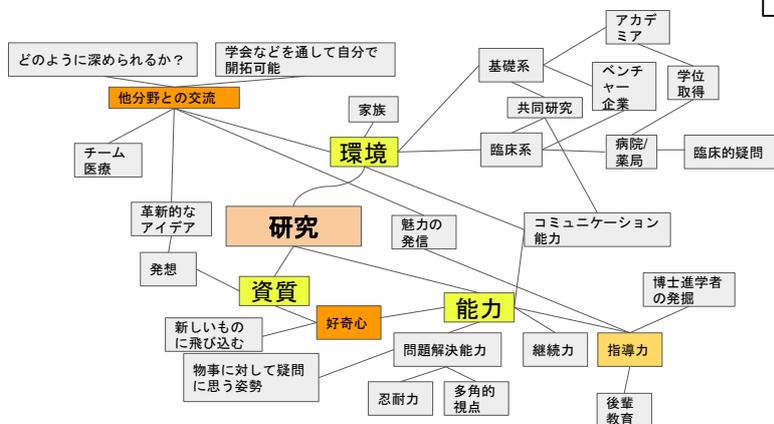
グループ：1D

1. 「研究に求められる資質・能力と環境」に関するツリーの作成

ディスカッションのテーマである「研究に求められる資質・能力と環境」について、ツリー(下図)を作成しながらディスカッションを行った。資質・能力の共通のキーワードとして「好奇心」が挙げられ、「好奇心」を育む環境として「他分野との交流」を深めることが重要であるという気づきが生まれた。また、このような視点で研究に従事する博士進学者の発掘には、能力として「指導力」が必要であると結論づけた。

第2部 「研究に求められる資質・能力と環境」
研究に求められる資質・能力と環境 とは？

グループ
1D



2. 「気づき」と「研究を進めるにあたっての(外的)課題」に関する議論

ツリーに基づき、指導力・表現力の重要性に対する認識が不足しているという気づきから、現状の問題点を掘り下げ、後継者を増やすための課題について議論を行った。議論の内容については以下にまとめた。

第2部 「研究に求められる資質・能力と環境」
「気づき」と「研究を進めるにあたっての(外的)課題」

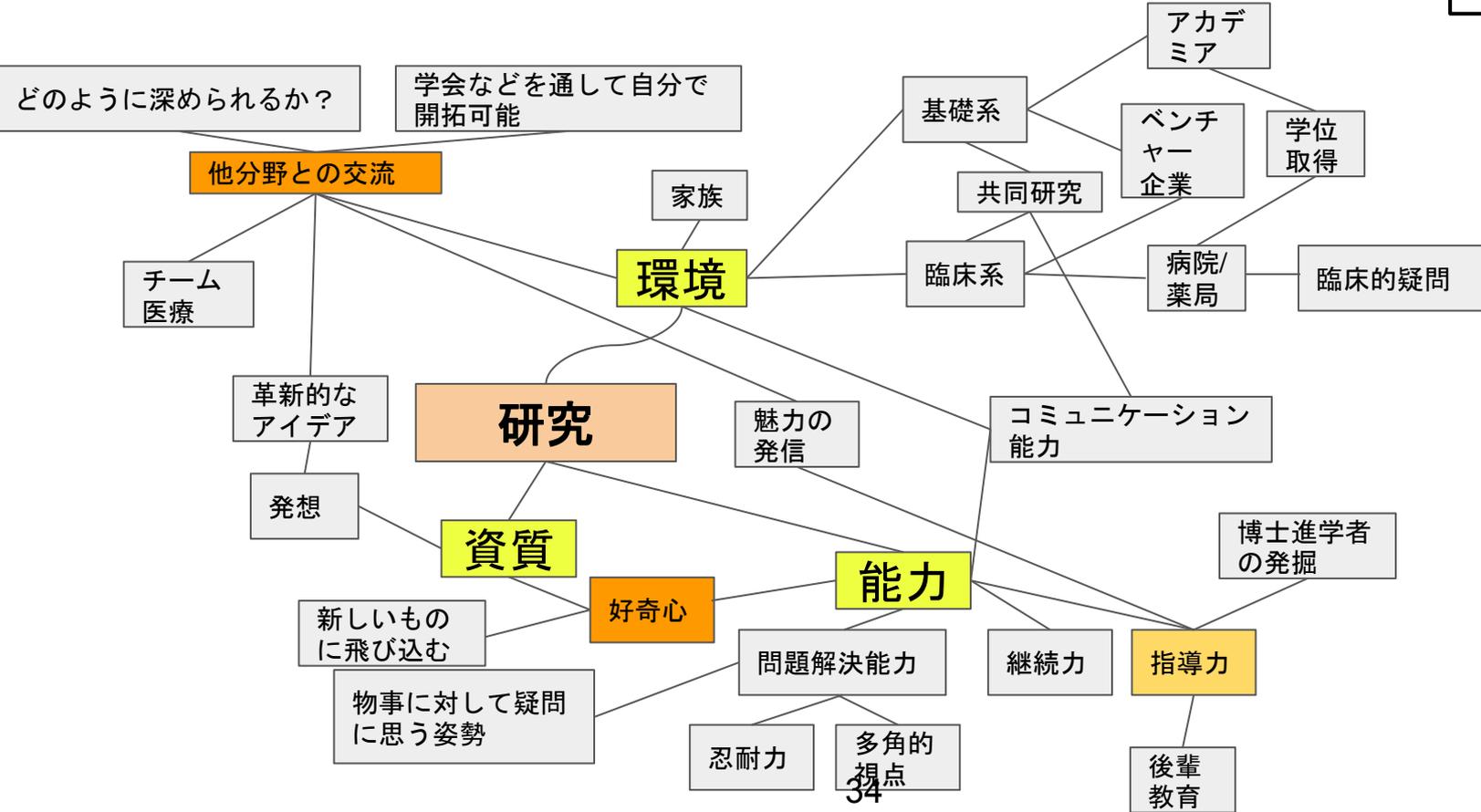
グループ
1D

- **気づき：指導力・表現力の重要性に対する認識の不足**
 - 研究者の人手不足が問題
 - 指導力・表現力（伝える力）があれば後継者・支援者を増やすことが可能ではないか
 - 若手のうちから指導力や表現力を重視する人は少ない印象
- **課題：後継者（進学者）を増やすためにどうすればよいか**
 - 進学には多くの困難が伴うため覚悟が必要（例：ポストが少ない、研究成果を出さないといけない、教育しないといけない）
 - ロールモデルを見てイメージしやすい環境を作る
 - 薬剤師として活動したい層が多い
 - 博士課程＝アカデミアではなく、様々な選択肢があることを伝える
 - 金銭面での問題
 - 大学からの給付型奨学金等を積極的に活用する

第2部 「研究に求められる資質・能力と環境」

研究に求められる資質・能力と環境 とは？

グループ
1D



第2部 「研究に求められる資質・能力と環境」 「気づき」と「研究を進めるにあたっての(外的)課題」

グループ
1D

- **気づき：指導力・表現力の重要性に対する認識の不足**
 - 研究者の人手不足が問題
 - 指導力・表現力（伝える力）があれば後継者・支援者を増やすことが可能ではないか
 - 若手のうちから指導力や表現力を重視する人は少ない印象
- **課題：後継者（進学者）を増やすためにどうすればよいか**
 - 進学には多くの困難が伴うため覚悟が必要（例：ポストが少ない、研究成果を出さないといけない、教育しないといけない）
 - ロールモデルを見てイメージしやすい環境を作る
 - 薬剤師として活動したい層が多い
 - 博士課程＝アカデミアではなく、様々な選択肢があることを伝える
 - 金銭面での問題
 - 大学からの給付型奨学金等を積極的に活用する

第2部「研究に求められる資質・能力と環境」

グループ：2A

研究に求められる資質・能力と環境とは何かを考えるため、各自が思いつくことをスライドに書き起こし、最終的に作成したマインドマップを見ながら、ディスカッションを行った。グループワークを通してそれぞれが活発にキーワードを出し、充実したマインドマップを作成することができた。

資質

主に精神面に関して着目した。研究をすすめるにあたって、独創性やハングリー精神、ポジティブ思考などの考え方が必要である。そこから派生し、チャレンジ精神、失敗を恐れないといった具体的な行動を書き込んだ。また、研究に対する集中力や臨機応変に対応できる能力ももちろん必要であるとも考えた。

環境

どのような環境であれば、研究を進めやすいのかをベースにそれぞれの意見を発表した。やはりグループのメンバーが口を揃えて出した意見が、お金の面である。お金の支援がないと、研究を取り組もうにも、手をつけられないのが正直なところである。また、研究室がブラック過ぎない環境を作ることにも研究をしやすい環境づくりの要素のひとつである。学会のコミュニティや同期、先輩、指導教員との人間関係、そして周囲の研究に対するやる気も必要であることも考えた。

能力

資質と少し共通点があるかもしれないが、より個人に絞って、能力の具体的なものを取り上げた。最後までやり切れる力、諦めないということはやはり大事であると考えた。その他にも、実験技能として器用さは必要であると考えた。また、対ヒトに対しても中心に考えを広げた。良好な人間関係の構築や後輩を指導するためのコミュニケーション力や協調性が大事であるという意見も出た。

モチベーション

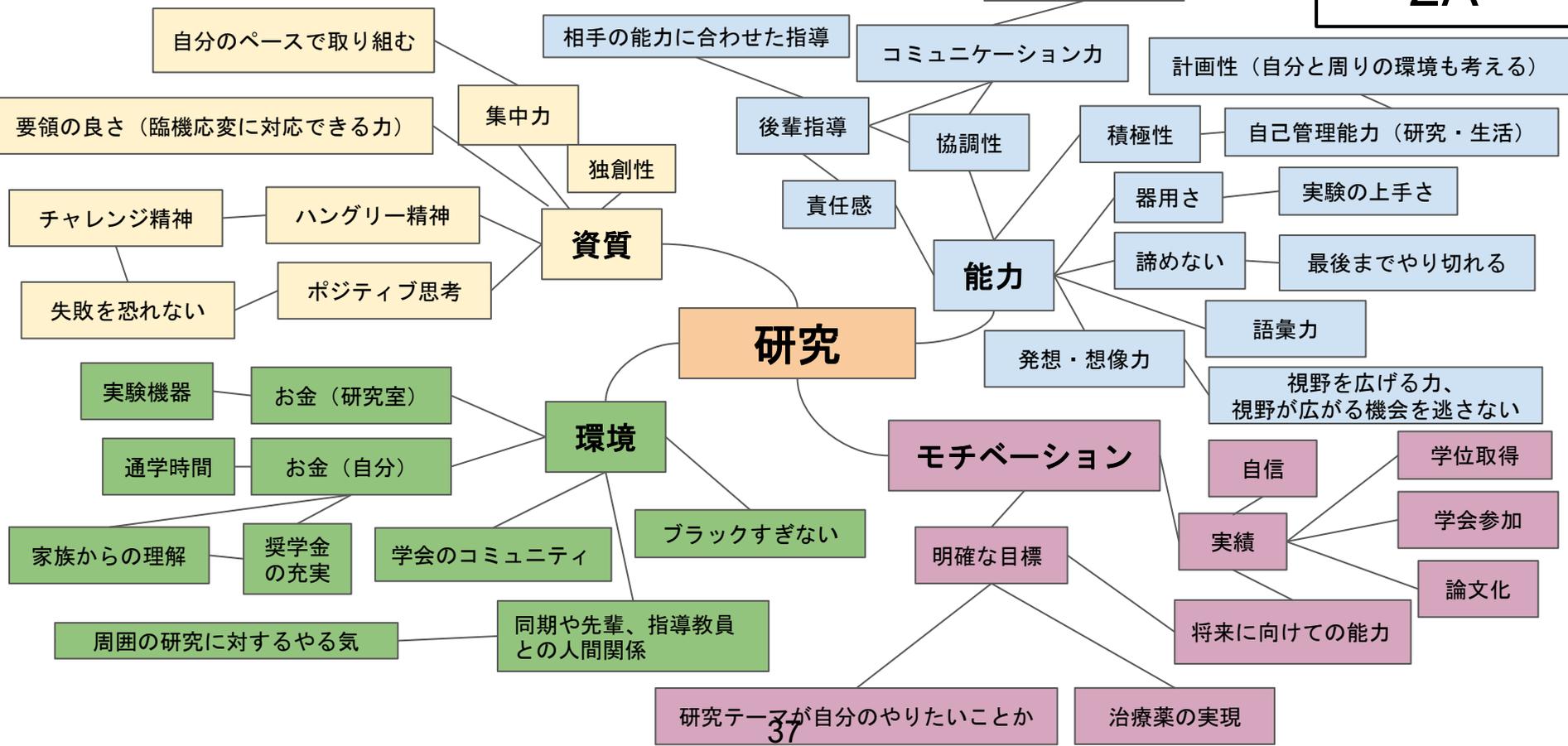
研究者のモチベーションとして、やはり実績や明確な目標がないと研究を続けることはできない。モチベーションは自信にもつながる。学会は積極的に参加し、将来に向けての能力を身につけるなど明確な目標を各自で設定することは大切であると考えた。

このマインドマップを作成して気づいたこと

作成するにあたって、全員が似た考えをもって博士課程に進学していたことに気づいた。タスクフォースの先生やグループワークをサポートしてくださった先生のお話により、常に相手がいるという気づきも得た。つまり、常に相手がいることを考え、自分中心で研究をしてはいけないことに気づかされた。また、研究を進めるにあたっての課題として、会話力不足、人間関係の構築不足がとても重要な課題であると感じた。

第2部 「研究に求められる資質・能力と環境」

研究に求められる資質・能力と環境 とは？



第2部 「研究に求められる資質・能力と環境」 「気づき」と「研究を進めるにあたっての(外的)課題」

グループ
2A

「気づき」

- 本議題に対し、みんな似た考えを持って博士課程に在学していた。
- 研究の資質というものが思いつきづらかった。
- 常に相手（企業・学生）がいる。自分中心ではいけない。
- 求められている能力が多い。

「研究を進めるにあたっての(外的)課題」

- 研究室外（企業や他の研究室、病院の先生など）での人間関係の構築不足
- 会話力不足→会話力の向上は人間関係の構築や発表にも活用できる
- 生活費、研究費を含めた奨学金の充実
- 博士課程の学生不足

研究は”ひとり”で行っているのではない。

第2部「研究に求められる資質・能力と環境」

グループ：2B

2Bグループでのディスカッションでは、求められる資質は本人の「やる気」や研究に対する「誠実さ」が最も重要であり、やる気があれば能力も伴っていくとまとまりました。中でも楽観的に考えること、失敗＝悪とは捉えずに、失敗をどう研究に活かすのかが研究者マインドとして大切であると考えました。

また、能力は論文や学会発表における表現力が求められます。特に論文作成においては英語力も必要なので、英語に対する嫌悪感を減らす努力が課題だと考えました。

環境面では研究資金・測定機器等が必要になってきます。それに加えて、まずは研究をできる環境があることを知る機会が必要であるとまとまりました。

気持ちの面がどの項目にも重要な要素であるので、自分自身が楽観主義者になれること、後輩等のモチベーションを上げてあげられるようにサポート（エンカレッジ）することが研究者に求められる資質・能力と環境を作るうえで欠かせないだろうと考えました。

【気づき】

- ・環境が大事なのかな。
- ・先輩、後輩などの環境が大事。
- ・本人の能力だけではなく、研究室のものに依存してくるのかな。
- ・研究室選びが大事。
- ・資質等ではあまり関係ないかな。→個人としての考え方、やる気が大事かな
- ・研究を発展させると好循環
- ・目標設定をしておかないと、研究がうまくいかなかったときに振り返ることができなくて困る（落ち込んだままになる）。
- ・気持ちの面がどの項目にも重要。

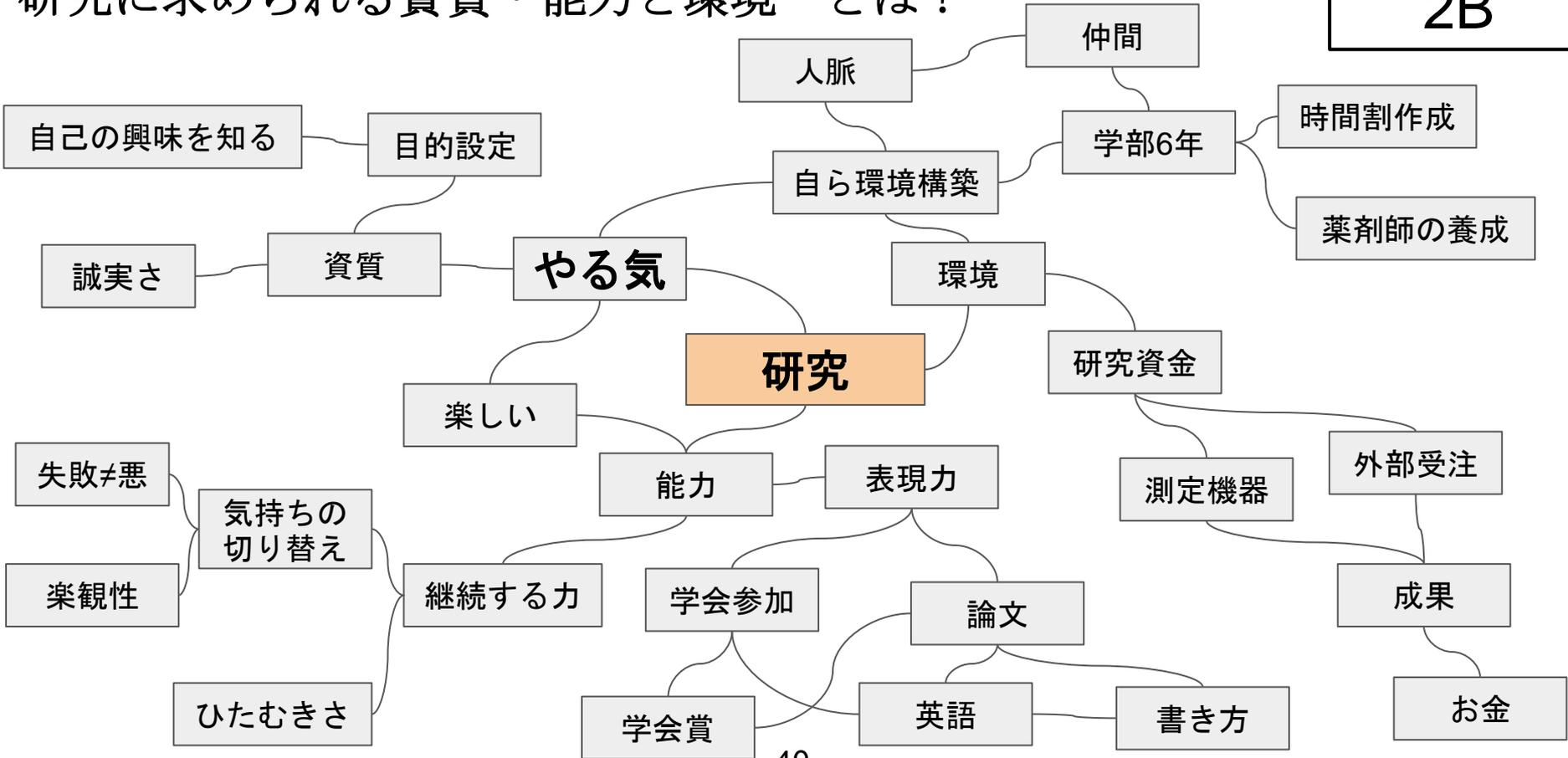
【課題】

- ・研究資金（環境）
- ・英語に対する嫌悪感
- ・環境に対して孤独な部分もあり
- ・研究をできる環境を知る機会があまりない

第2部 「研究に求められる資質・能力と環境」

研究に求められる資質・能力と環境 とは？

グループ
2B



第2部 「研究に求められる資質・能力と環境」 「気づき」と「研究を進めるにあたっての(外的)課題」

グループ
2B

気づき

- 研究を行う環境（設備・資金等）が研究遂行には大事である。
- 先輩、後輩などの人的要因も研究をすすめる上で大切である。
- 研究成果は、本人の能力だけではなく、研究室環境に依存することもある。
 - そのような意味で、大学生時の研究室選びは大事である。
- 個人の能力的な資質等よりも、個人としての考え方、やる気が大事である。
- 研究を発展させると好循環がおきる。
- 目標設定をしておかないと、研究がうまくいかなかったときに振り返ることができなくて困る（落ち込んだままになる）。
- つまるところ、「気持ち」の面がどの項目にも重要である。

課題

- 研究資金（環境）をいかに確保するのか。
- 英語に対する嫌悪感をどのように払拭するのか。
- 環境に対して孤独な部分をどのように解消するのか。
- 研究をできる環境を知る機会があまりないため、「知る機会」を創出する必要がある。

第2部「研究に求められる資質・能力と環境」

グループ：2C

第2部では、「研究に求められる資質・能力と環境」というテーマでSGD形式の討論を行った。2C班では、本テーマを「資質・能力」と「環境」に分けて意見を共有しながらマインドマップを作成し、新たな気づきや研究実施に際する課題を見出した。また、議論した内容はスライドにまとめて発表し、他の班と情報を交換した。この報告書では、2C班での討論結果について記載する。

【研究に求められる資質・能力と環境とは？】

上記のテーマについて討論し、マインドマップを作成した。研究に求められる「資質・能力」では、探求心や好奇心、体力という意見が挙げられた。自らの研究を突き詰めるためには、探求心や思考力、情報収集能力が必須となる。自身に関わる研究はもちろん、学会等で他者の発表を聴講する際にも、好奇心を持つことで活発な意見交換が可能になる。また、研究を進めるには体力が重要であり、実験数を重ねて積極的に研究活動に取り組めば計画能力や問題解決能力が向上し、資質や能力の向上につながる。

研究に求められる「環境」では、多くの研究者との交流、研究資金の獲得という意見が挙げられた。研究に関して相談したり視野を広げたりするには、身近に気軽に討論できる人や他大学出身者、専門分野が異なる人がいる環境が良いと思われる。しかし、大学院生の人数が少ないので、全員がこのような環境に身を置くのは困難である。したがって、学会や今回のワークショップ等に自発的に参加して、多くの研究者との交流を行うことが望ましい。特に学会のポスター発表では、会話から話を広げれば人間関係を築ききっかけになる。学会活動は発表時の双方の理解一致のためのプレゼンテーション能力の向上につながり、さらに多様な見解に触れられる点が大きなメリットである。また、研究環境を整えるには研究資金も獲得しなければならない。なお、自身が望む「環境」が整備されるのを待つのではなく、行動を起こしたり配属先の環境に順応したりすることも重要だという意見もあった。

【「気づき」と「研究を進めるにあたっての(外的)課題】

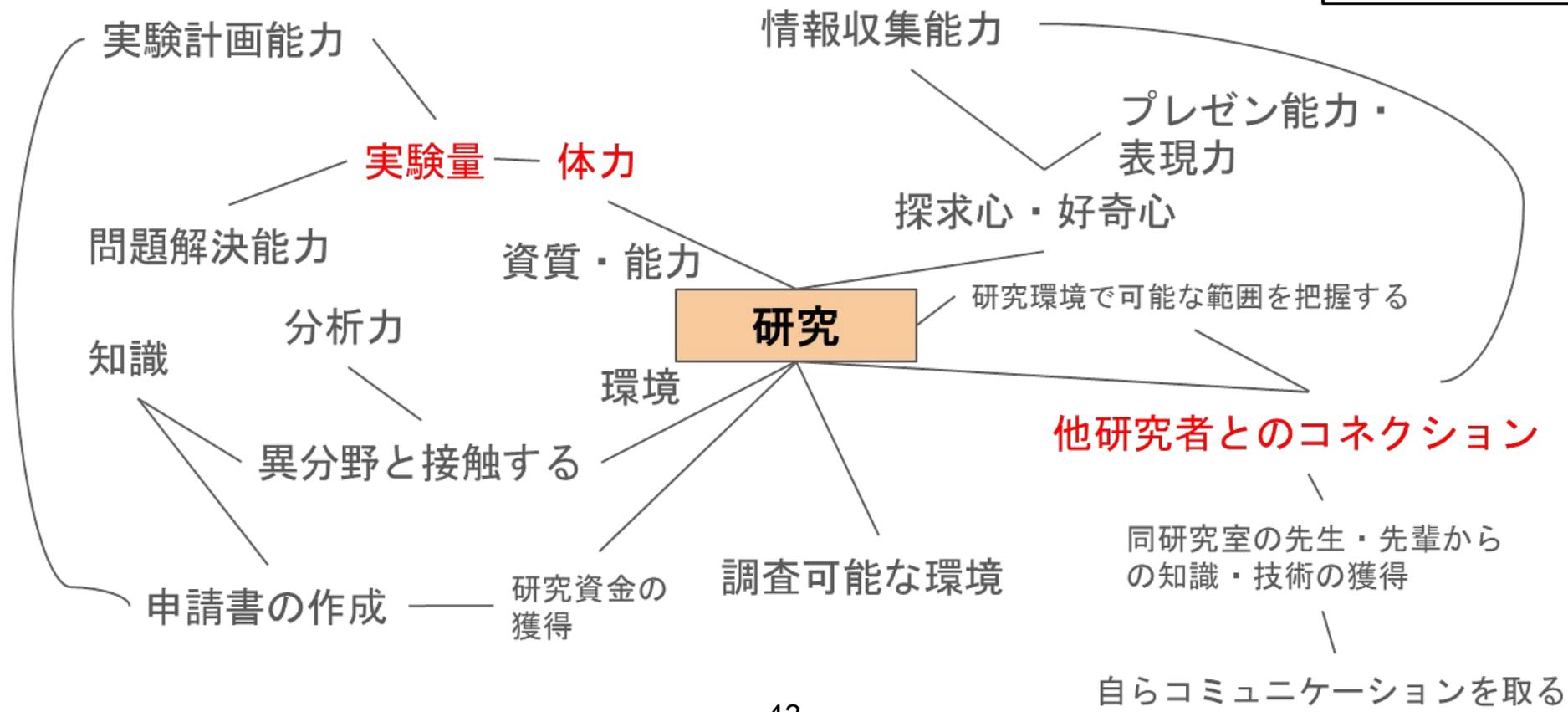
上記のテーマについて、マインドマップ作成時の意見を参考に議論した。その結果、他者とのコミュニケーションを通じて研究活動を行うことによる問題解決能力や計画力の獲得、学会発表等での多くの研究者との交流が大切であると考えた。こういった機会を多く得るには、失敗を恐れない行動が必要不可欠であるという気づきを得た。これにより実験数が増えてトラブルが生じた際の対応の機会も上昇し、積み重ねていく経験はすべて自分の力になる。

また、研究を進めるにあたり他者との交流は必須であり、コネクションを作るには自らの行動が鍵となる。他者との意見交換にはプレゼンテーション能力が重要であり、現状の課題である。そして、意見交換の内容を充実させるのに必要な多くのデータを得るためには、研究に対する探求心や好奇心に加えて体力も維持することが大切であると考えた。

【総括・感想】

討論後には、発表を行って他の班とも情報を共有した。2C班で重視した資質のひとつは「体力」であったが、各班で幹となる課題や考えが異なり興味深く感じた。また、討論を通して、所属や専門分野、研究環境が異なっても、研究に対する考え方は類似する箇所があることが分かった。盛んな意見交換によりワークショップ参加前より柔軟な発想ができるようになり、大変有意義な時間だった。

第2部 「研究に求められる資質・能力と環境」 研究に求められる資質・能力と環境 とは？



第2部 「研究に求められる資質・能力と環境」
「気づき」と「研究を進めるにあたっての(外的)課題」

グループ
2C

《気づき》

- ・ 失敗を恐れずに行動する。
 - 実験の遂行を通して、問題解決能力や計画力を獲得する。
 - 他者とのコミュニケーションを取りながら研究活動を進める
 - コミュニケーション可能なコネクションを作る。
 - 学会発表等を通じてコネクションを作る。

《研究を進めるにあたっての課題》

- ・ 研究を効率的に遂行するためのプレゼンテーション能力の醸成が必要である。

第2部「研究に求められる資質・能力と環境」

グループ：2D

研究に求められる資質・能力と環境について、各々の意見を聞きながらマインドマップを作成した。班員は、博士課程に在籍する学生だけでなく、病院薬剤師として働きながら研究を進める社会人博士学生や教員など様々なバックグラウンドの人で構成されたため、あらゆる視点から話し合うことができた。グループディスカッションを進めていくと、研究に求められる資質・能力として「根性」や「モチベーションの維持」といった精神の面が重要であるという意見にまとまった。研究に求められる環境としては、実験に使用することのできる「研究資金」が重要であるという意見にまとまった。

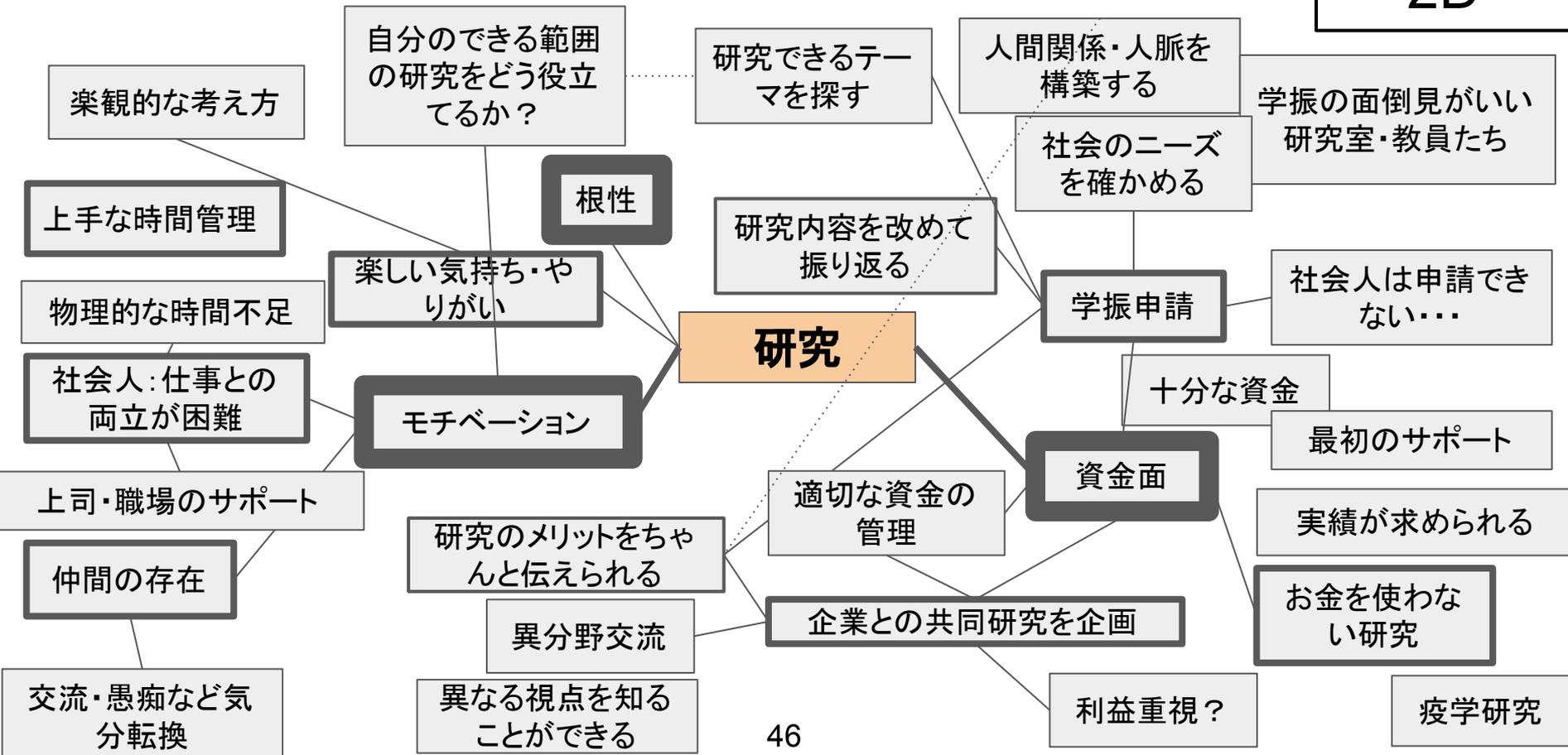
次に、「根性」や「モチベーションの維持」などの精神面について深掘りしていくと、研究以外にもやらなければいけない事がある人、特に、日中に仕事がある社会人博士学生や、学生の指導と日常業務を行う教員は、その膨大な量の仕事に体力を奪われてしまい、研究に対するモチベーションを維持することが困難になり得る、という意見が出された。ここから、時間を上手に管理する能力や、仕事を他の人へ適切に分配する能力も必要であることに気がついた。さらにグループディスカッションを進めると、常に研究に対して高いモチベーションを保つにあたり、研究設備や器具・試薬など環境面の充実も必須ではないか、という意見が出され、研究資金の重要性について議論することとなった。博士課程の学生や博士研究員に最も身近な研究資金の獲得方法は、日本学術振興会特別研究員に採択されることなどであるが、採択数が限られている点などから容易ではない。そのため、各種申請書を書く際、学生や教員に気兼ねなく相談できるような環境は理想的である。そのような研究室内の良好な人間関係は研究に求められる環境であると考えた。

続いて、研究を進めるにあたっての外的課題についてグループディスカッションを行うと、主に研究時間の不足と人間関係に関する課題が挙げられた。やらなければいけないタスクが恒常的に多いと研究に割く時間を十分に確保できない。この課題に対する解決策として、他の人の力を借りるという意見が挙げられた。資金が潤沢にあるならば、事務員を雇うことで自身に降りかかってくる事務作業を減らすことができる。また一般の研究室でも、学生に適切な指示を出すことで負担を分割することができることもある。人間関係に関する外的課題としては、上司と自身の関係性や、研究に対するモチベーションの差から生じる衝突が挙げられた。研究室によって、実験を頑張りたい学生(教員)と、実験よりも薬剤師国家試験の勉強を頑張りたい学生が混在してしまうため、その研究に対するモチベーションの差から人間関係がこじれてしまうことが起こり得る。そのような人間関係に関する課題の解決策として挙げられた意見は、アンガーマネージメントなど自身の心理状態をコントロールする術を身につける、というものである。私たち人間は、人により考え方や感じ方に大きな差が生じてしまうので、論理性だけで全員動くわけではない。相手の価値観を理解しようとし、話しかけやすい雰囲気心がけることで、自身の精神力を成長させることが大切であると考えた。

第2部 「研究に求められる資質・能力と環境」

研究に求められる資質・能力と環境 とは？

グループ
2D



第2部 「研究に求められる資質・能力と環境」 「気づき」と「研究を進めるにあたっての(外的)課題」

<気づき>

- **時間管理**をもう少し工夫することで、研究と付随タスクの両立をいかに図れるか？
- **異分野交流**の機会を増やしたい(研究費申請のためにも)
- 共同研究をやっていても、異分野交流が必ずしも十分でない
- モチベーションを保つ為には根性だけではなくて、**資金面**などの環境も大事
- 研究が上手くいかないときの対処法をもっておきたい
- いかに**良いコミュニティ・人間関係**を構築できるか？
- 社会人として醸成された人間・俯瞰的に考えられる視点を自分も持つ。持った人と交流する
- 自分に合うより**良い環境を求めて**場所を飛び出す勇氣

<外的課題>

- 博士学生・大学職員に降りかかる**タスクが恒常的に多い**→**研究に割ける時間が少ない**
- 大学病院でも、職務に追われて研究に専念できる時間が確保しにくい
- 研究を熱心にやっている大学職員がもっと報われるようにしてほしい(資金・賞与)
- 教授(上司)との**関係性が良好か？**
- 研究室によって、研究を重視する場所と研究を重視しない(臨床系など)場所が混在
- 異分野交流、他学生との**交流の機会がもっと気軽にできる**ようになってほしい



セッション報告

第三部

「将来の夢につなげるキャリアデザイン」

1

大学院生および博士取得者のための
キャリアデザインワークショップ

「研究マインドを活かすキャリアについて
議論し、将来の夢の実現につなげよう！」

第3部

「将来の夢につなげるキャリアデザイン」

1

2

第一部 (World Cafe) 「学位取得と将来の夢」
ラウンド1 「学位取得を目指した理由」

大学院博士課程進学

2

3

第一部 (World Cafe) 「学位取得と将来の夢」
ラウンド2 「大学院での研究活動について」

研究・実験 研究討論 学会発表

論文執筆

セミナー

3

4

第一部 (World Cafe) 「学位取得と将来の夢」
ラウンド3 「将来の夢」

大学院修了 (博士取得)

研究教育
病院薬局
行政

4

5

第二部
「研究に求められる資質・能力と環境」

資質・能力を向上させ、適切な環境を整えることで、研究は進展し、自身の将来のみでなく、社会に貢献する可能性が高まる。

5

6

第三部
「将来の夢につなげるキャリアデザイン」
これからの作業 (75分)

1. 司会、記録、発表、報告書の担当を決めてください。
2. 第二部で議論した資質・能力や環境に関する課題への対応を列挙してください。
(SGD: 30分)
3. 自身のキャリアデザインを立ててください。
(個人: 25分)
4. グループで個々のキャリアデザインを共有してください。
(SGD: 20分)

6

7

第三部
「将来の夢につながるキャリアデザイン」

「資質・能力や環境に関する課題への対応」 グループ名:

	課題	対応策
1		
2		
3		
・		
・		

7

8

第三部
「将来の夢につながるキャリアデザイン」

「個人のキャリアデザイン」 イニシャルorニックネーム

時期	研究能力を活かしたキャリアデザイン?	どこで?
5年後		
10年後		
20年後		

8

9

第三部
「将来の夢につながるキャリアデザイン」

14:10 作業説明
 14:20 Small Group Discussion (75分)
 15:35 休憩
 15:45 発表 5分・質疑 2分
 発表順 B・C・D・A
 全体討論 10分
 16:25 振り返り (15分)

9



セッション報告

第三部

「将来の夢につなげるキャリアデザイン」

グループ報告書

第3部「将来の夢につなげるキャリアデザイン」

グループ：1A

1. 資質・能力や環境に関する課題への対応

グループ1Aでは資質・能力や環境に関する課題およびその対応策として以下の項目が挙げられた。

課題1：ディスカッションしやすい・責められていると感じない環境作り

- 対応策：
- ・相手の話に興味関心をもつ
 - ・自分自身がスキルアップする（幅広い知識を吸収するなど）
 - ・相槌、笑顔を意識する
 - ・後輩の面倒を見る体制を整える
 - ・雑談と議論のめりはり

課題2：社会問題に対するアンテナを立てる

- 対応策：
- ・日々の論文検索、学会参加
 - ・アンメットメディカルニーズを把握する
 - ・自身の研究の立ち位置を考える

課題3：研究するための資金集め

- 対応策：
- ・学内外の研究費の申請を積極的に行う
 - ・助成金公募状況を常にチェックしておく
 - ・企業との共同研究
 - ・コストカット

2. 個人のキャリアデザイン

個人のキャリアデザインは5、10、20年後の夢や目標を各自が考え、以下のようになった。

時期

5年後

- ・博士課程を修了しどこかの企業で就職している
- ・国内もしくは海外でポスドク研究員となり能力を磨く
- ・博士課程を取得し納得の行く就職先（民間企業）でバリバリ仕事をしている
- ・大学で専門領域を指導、博士取得者を輩出する
- ・大学で教員となっている
- ・大学教員となり自分の研究領域を広げ、社会で求められる研究者像を知る

10年後

- ・どこかの企業で企画立案ができるようになってほしい
- ・民間企業もしくは大学で研究職に就き技術や意識を生かしたい
- ・民間企業で中堅職員となり、共働きで子供なしの週末婚
- ・大学で基礎と臨床研究への幅を広げた研究を主導する
- ・アカデミアでPIとなる
- ・大学で自分の研究分野に興味を持ってもらい、研究の裾野の広さを伝える

20年後

- ・どこかの企業で業界内のニーズに合った企画立案などができるようになってほしい
- ・もっと先かもしれないが薬剤師として働く
- ・福岡県でのんびり調剤薬局薬剤師をする
- ・大学もしくは薬局で地域に何かしらの貢献をしていく薬局を経営する
- ・アカデミアで臨床試験に着手する
- ・大学で外部資金集めや、学生や研究員が円滑に研究できるような環境作りをする

第3部「将来の夢につなげるキャリアデザイン」

グループ：1B

1. 資質・能力や環境に関する課題への対応

	課題	対応策
1	資金（研究資金）	<ul style="list-style-type: none"> ● グラントの確保が困難なため、大学からも応募先の紹介を行うようにしてもらう ● グラントの公募数自体の増加 ● 研究室内の資金力を把握できるようにする →ほしい器具を買えるかを検討する際の参考にする ● DC や科研費の申請書の書き方などを教えてもらえる講座の機会提供 →大学ごとに行った場合、大学ごとに講座内容のクオリティの差ができてしまう。また各研究分野により書き方に違いがあるため、大学内一括で講座を開講すると参考にしにくい恐れがある →薬学会の分科会など小さい単位での講座開講 ● 薬学会でグラントの確保ができている先生によるセミナーを開く ● 複数のグラントにまとめて応募できるようなプラットフォームの開設
2	人員（修士、博士過程進学者）	<ul style="list-style-type: none"> ● 高校生以下の学生に研究の楽しさを伝える →インスタグラムなどのメディアを通じた宣伝の実施 ● 研究の一般化（情報発信、難解さを出さずに興味を惹くような伝え方） →専門家だからこそ伝えられる研究の魅力を伝える ● 環境の過酷さではなく楽しさを伝える ● 博士課程修了後の選択肢を増やす →進学することで将来の選択肢が狭まるかもしれない、「研究＝アカデミア」というイメージを払拭する ● 6年制薬学部進学者は薬剤師として働く意識が強いので、入学前に進学の選択肢があることを意識づける
3	時間	<ul style="list-style-type: none"> ● 企業との連携 →予備実験・再現性のための実験を依頼することで、研究時間の確保 ● コアタイムを設定し、効率よく作業する

2. 個人のキャリアデザイン

●病院

時期	研究能力を活かしたキャリアデザイン？	どこで
5年後	<ul style="list-style-type: none"> ・博士課程修了後、博士号を持つ薬剤師として病棟で働きながら臨床経験を積む ・認定薬剤師を取得 ・博士課程で培った問題解決能力や知的探求心を元に研究活動を続ける 	病院
10年後	<ul style="list-style-type: none"> ・専門薬剤師を取得し、薬剤師としてさらに専門性を深める ・後輩の育成 	病院
20年後	<ul style="list-style-type: none"> ・昇進、将来的に大学に戻ることも視野にいれる ・この時点で今の医療体制とは大きく変化していることも予想されるそこは適応していきたい 	病院もしくは大学

●アカデミア

時期	研究能力を活かしたキャリアデザイン？	どこで
5年後	<ul style="list-style-type: none"> ・自身の研究の強みの理解 ・他の研究者との差別化・独自性の確立 ・生涯の研究テーマの探索 ・教員として必要な基礎的素養・学生への指導技術の習得 ・研究者としての修業期間 ・論文執筆 ・他研究者や職種の人との繋がりを大切に積極的に交流する ・1st author で 10本の目標を達成したい 	<ul style="list-style-type: none"> ・国内の大学 ・現在と違う研究テーマを行える場
10年後	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯の研究テーマに関して研究 ・研究室運営に関しての知識・技能の習得 ・学生への指導 ・キャリアの醸成 or 転換 ・自身で考えた研究テーマの遂行・拡大 ・家族みんなで海外留学 	<ul style="list-style-type: none"> ・海外の大学 or 研究所 ・支え合える仲間が居る場
20年後	<ul style="list-style-type: none"> ・それまでの研究成果をもとに社会へ還元 ・大学教員として薬学研究者・薬剤師の育成に従事する(次世代の研究者の育成) ・10年後の研究の応用・10年後の自分では考えられないような研究 ・共同研究などを通じてさらなる研究に発展させる 	<ul style="list-style-type: none"> ・国内？海外？大学？企業？ ・大きなデスクと心地の良い椅子

第3部「将来の夢につなげるキャリアデザイン」

グループ：10

1. 資質・能力や環境に関する課題への対応

当班では第2部における“環境の影響力が大きく、それが資質や能力にも影響している”という気づきをもとに環境に関する課題に対して議論を行った。研究者を目指す人員が少ないことに焦点を当て、高校生や学部4年生への勧誘、資金面について課題及び対応策を挙げた。

高校生を対象とした課題では「院進を目指して入学する学生が少ない、研究者の実態が見えづらい」の2点が挙げられた。You Tubeのような発信コンテンツ拡充や日本薬学会中国四国支部で開催される高校生オープン学会といった、高校生の頃から研究者志望の学生がアクセスできる機会の整備。また、地方では大学数が少なく地方格差があるとの声から、地方における薬学部の設立や学会などの開催機会の増加。研究者を目指して6年制学科に入学する学生が少ない背景から、薬剤師かつ博士取得者の役割の提示を行い、4年制学科との差別化を図る。以上のように、大学選択の段階から薬剤師かつ薬学研究者の選択肢を視野に入れるための施策の導入が必要との結論に至った。

薬学科4年生を対象としたときの課題では、研究室の環境として「6年制と4年制の研究に対する認識の違いや臨床研究と基礎研究のギャップ」といった薬剤師教育と薬学研究のギャップが挙げられた。特に6年制は薬剤師を志望する学生が多く、研究にかける比重が少なくなる傾向がある。そのため、薬剤師の声を聞く、臨床経験を持った教員の育成、薬局と病院の学位に対するニーズの差を考慮した内容や学位と認定資格を持った薬剤師にできることの提示など臨床を意識した教育・研究活動を取り入れるとの意見が挙げられた。

資金面での課題では、学費や生活費、研究活動費、学会参加費など多くの場面で資金が必要になり負担が大きいことが挙げられた。対応策として、給付型奨学金の新設・利用や学術振興会などの助成の活用といった意見が出た。また、社会人博士では収入があり資金的な負担が少なくなるとの意見が挙げられた。一方で、研究に割く時間が減ってしまい時間的な制約が大きくなるため、仕事と研究のバランスを取る必要があることが指摘された。

2. 個人のキャリアデザイン

当班では、多様なバックグラウンドを持つメンバーが集まったにも関わらず類似したキャリアデザインを上げていた点が大変興味深かった。以下に具体的な意見を示す。

5年後のキャリアデザイン

- ・博士号取得後、出身研究室での研究を継続（助教又はポスドク）
- ・データのブラッシュアップ、論文投稿や学会発表を通じて昇進
- ・講義・実験実習での指導、所属研究室学生への指導、高校生に対する広報活動
- ・出身大学と近隣の病院又は薬局に所属し臨床経験を積む
- ・多くの研究者（基礎・臨床ともに）と交流し、知見や人脈の拡大
- ・海外留学経験（1～2年程度）

10年後のキャリアデザイン

- ・他の大学への留学，実施可能な研究手法を拡大
- ・1年ほど他研究室への出向もしくは海外研究施設での留学
- ・学会発表やセミナーを通して，他大学または研究施設の先生方とのコネクション
- ・大学の講師や准教授へキャリアアップ
- ・受け持ちの学生への指導や後進の育成
- ・大きなインパクトのある研究成果を打ち出す
- ・臨床現場の人と積極的に共同研究を実施し，基礎から臨床への橋渡しを行いつつ臨床に適した人材を輩出する方法について学ぶ
- ・大学病院の中で実務科教員又は指導的な薬剤師

20年後のキャリアデザイン

- ・教育中心か研究に専念か選択
- ・出身大学でのキャリアアップまたはそれを見据えての研究
- ・教授として地方発展を目指し，学会発表の地方開催を誘致
- ・臨床薬剤師が大学などの研究や教育中心の機関に問い合わせが容易なシステムを構築
- ・大学に籍を置いてもらい、薬剤師レジデントの制度設立，「臨床系教員＞基礎系教員＞臨床薬剤師」サイクルの確立を目指す
- ・若手研究者に対する研究指導などの後進育成，研究と臨床の両輪を担えるよう後進の指導
- ・薬学教育および研究活動を通じて科学的思考をもつ薬剤師の養成を目指す
- ・同時に研究の楽しさを知ってもらい，博士課程への進学を希望する学生の増加を目指す

全体的にキャリア初期は学位取得した大学で継続した研究活動を行い，助教や講師へのキャリアアップを描く傾向にあった．5～10年後のキャリアでは他大学の研究室，海外留学で研究活動を行い，スキルアップやコネクション形成を挙げていた．キャリア後期では出身大学に戻り教授等のポストに就き，研究室運営や教育活動への従事を目指していた．キャリア全体を通して学生の指導や大学院進学をサポートといった後進育成に力を入れていきたいとの意見が挙がった．

第3部「将来の夢につなげるキャリアデザイン」

グループ：1D

1. 資質・能力や環境に関する課題への対応

第2部では、研究に求められる資質・能力、環境は相互に関連付けられると結論づけた。これらの因子に関する課題を考えた際に、何をすることもお金が必要であるという考えから「資金面（研究面ならびに生活面での資金問題）」を第1の課題に挙げた。次いで、第2の課題に「後継者（進学者）を増やすためにどうすればよいか」を挙げた。研究活動は個人で完結する能力が求められる一方で、その活動は他者の協力も必要不可欠となる場面が多く存在する。しかしながら、昨今問題となっている研究者の人手不足は円滑な研究活動を妨げる要因になっている。さらに、学生から見て魅力のある職業になっていないのではないかという意見も出ており、悲しい現実が人手不足に拍車をかけていると考えた。我々は議論の中で、指導力・表現力（伝える力）を養うことが課題解決の糸口になると予想した。以上を理由に後継者問題を課題の1つとして提起した。

以下、課題に対する対応策を記す。

	課題	対応策
1	資金面 1-1: 研究面での資金問題 (例: 研究活動費、ジャーナル投稿料、 国際学会を含む学会参加費 など) ※研究の取捨選択に迫られる心配がある 1-2: 生活面での資金問題 (例: 学費、生活費など)	1-1: 研究面での資金問題の解決策 ① 学術振興会などの財団へのチャレンジ (指導教員の協力が必要不可欠) ② 投稿料・学会参加などの成果発表に伴う経費を 補助する制度の充実・周知 (大学間の隔たりがないようにできないか) 1-2: 生活面での資金問題の解決策 ① 薬剤師のアルバイト (実務経験も積める) ② 大学・公的機関での奨学金の利用
2	後継者(進学者)を増やすためにどうすればよいか (指導力・表現力の構築) ※モチベーションの少ない学生への対応が難しい?	① 教えた側がフィードバックを貰う (相互の意見交換のある関係を築く)→具体的にどう貰う? ② 自身の研究成果を発表する機会を増やす ③ 学生が成果に対する評価される機会を作る (学会発表、卒業研究発表会での表彰制度) ④ 他大学間で学生同士の交流をできる場を作る

2. 個人のキャリアデザイン

薬剤師免許を取得することもできる薬学部では、将来のキャリアデザインは他学部と比較して多岐にわたると予想される。我々のグループ内では薬剤師免許を生かした活躍や基礎研究の研究者としての活躍、グローバルに活躍できる学生の育成など様々なキャリアデザインが提示された。以下に、代表2名のキャリアデザインを記す。

【キャリアデザイン A】

時期	研究能力を活かしたキャリアデザイン？	どこで
5年後	病院薬剤師業務と研究の両立 ・病院薬剤師としての業務経験を積みながら臨床疑問を見出す。 ・特にがん治療や緩和医療領域における臨床疑問解決のための臨床研究・基礎研究に従事し、学会発表や論文執筆を通して業績を積む。	・病院薬剤部 ・医学部または薬学部
10年後	専門性と人脈の獲得 ・がん治療や緩和医療領域における認定薬剤師の取得 ・医師・看護師・コメディカル・基礎研究者との共同研究による TR/rTR体制を確立する。	・病院薬剤部 ・医学部または薬学部
20年後	次世代の薬剤師の育成・新規治療の確立 ・がん治療や緩和医療領域における指導薬剤師の取得 ・TR/rTRに従事する病院薬剤師を育成する。 ・薬剤師業務における研究活動を拡充する。 ・橋渡し研究におけるトップランナーとなり、新規治療を開拓する。	・病院薬剤部 ・大学(薬学)

【キャリアデザイン B】

時期	研究能力を活かしたキャリアデザイン？	どこで
5年後	・今持っている研究テーマだけでなく、複数のテーマを基盤とした研究費の獲得。 ・今の所属分野とは違った場所でのキャリアも考えられる。	国内外の研究所や大学等の研究機関
10年後	・大学教員として研究と指導の両立。 ・ 基礎研究をメイン に、自分の研究スタイルやテーマを確立していく。	大学
20年後	・一人の研究者として独立。 ・チームの協調性の中でも埋もれないような独自性を持つ研究者(例: IFの高い論文の投稿)。 ・ 社会に還元していく側 への移行。 →自身の手で、遺伝子疾患などの患者数の少ない疾患に対しての治療薬の開発を目指す。	ベンチャー企業の立ち上げ、参画

第3部「将来の夢につなげるキャリアデザイン」

グループ：2A

1. 資質・能力や環境に関する課題への対応

第2部で議論した、資質・能力や環境に関する課題への対応策をまとめるのは、難しかったが、タスクフォースの先生やグループワークをサポートしてくださった先生のアドバイスにより、考えを広げまとめることができた。

課題とその対応策として、我々のグループは、3点あげた。

課題①：会話力不足

対応策：会話力不足に対する解決策の一環として、話す機会を設けることが第一であり、その考えをもとに意見を広げた。例えば、年間で参加する学会を決めて参加し、その学会内で行われるディスカッションやセミナー、懇親会にも積極的に加わる。さらに、異分野の人とも気兼ねなく交流することも対応策の一つに挙げられた。

課題②：生活費、研究費を含めた奨学金の充実

対応策：どうすればお金を集めることができるか、を中心に考えを広げた。その対応策の一つとして、助成財団や給付型奨学金、大学独自の奨学金制度、授業料免除についての情報収集を行うことが大切である。また、留学したい場合は、興味のあるラボに直接メールを送り、受け入れの交渉をするなど、自分の自己研鑽のために自ら行動することで、将来的な研究費の獲得につながるのではないかと考えた。

課題③：博士課程の学生不足

対応策：自分がロールモデルとなり、後輩の探求心、好奇心をくすぐるような指導を行うことを第一に考えた。学部生に向けて、早い段階で博士課程の魅力のアピールし、博士課程への選択肢を示すことが対策の一つとなる。また、オープンキャンパスに学部生だけでなく大学院生も参加し、高校生に研究の魅力を伝える。高校生に実際に研究室に来てもらい、ピペットを触って体験してもらうなどの具体例も出た。高校生や学部生と大学院生が関われる場を設けることは、とても重要であり対応策の一つである。

この作業は、全体を通して、対応策を出すのに非常に苦戦した。

冒頭でも述べたように、先生方に意見をいただいて、まとめることができた。それにより、気づいた部分も多く、オープンキャンパスなどの学校のイベントに、大学院生も参加するという意見は、今まで考えたことのない視点で、全員が感銘を受けた。

2. 個人のキャリアデザイン

5年後、10年後、20年後の時点で、どのような研究能力を生かしたいかといったキャリアデザインを描いているのか、各自で列挙した。その後、それぞれの考えを発表し、意見交換を行った。ここでは、いくつかの代表的なキャリアデザインを例に、どのような考えがあったのかを報告する。

一つ目のキャリアデザインとして、大学院でキャリアをつみ、企業でその先の目的を実現するというものがあった。企業で研究を行いたい、そのためにも TOEIC で高得点を目指すという近い目標があった。その後は結婚や子育ても視野に仕事を考えていくという将来像を描いていた。

二つ目として、留学などはもちろんのこと、20年後には、自分の興味のある異分野の研究をしてみたいという考えもあった。最終的には、全く異なった分野の研究に触れるという点で興味深く、グループ全員がとても印象に残った。

三つ目のキャリアデザインとして、アカデミアに残り、教授や研究グループ長になりたいという目標もあった。

各々の意見を総括すると、5年後の近いキャリアデザインとして、自分の能力アップ期とし、自分の経験を積みたいという意見が多く、やはり20年後などより先のキャリアデザインでは、自分が若手研究者に対し伝える・教える立場になりたいという意見が多数挙げられた。

第3部「将来の夢につなげるキャリアデザイン」

グループ：2B

1. 資質・能力や環境に関する課題への対応

	課題	対応策
1	研究をできる環境を知る機会があまりない →大学院進学者を増やす	SNS等を利用して人（研究したい学生）を増やす 進学するメリット・デメリットを説明し、進学に興味をもってもらおう努力をする
2	環境に対して孤独な部分もあり	両親の理解が必要。オープンキャンパス・公開講座等で進学のキャリアがあることを保護者にも知っていただく。
3	英語に対する嫌悪感	英語論文の書き方・読み方を教える 慣れが大切なので全文翻訳はなるべくしない 留学等の機会を活かす 国内でも国際交流（英語でディスカッション）の機会を作る
4	・研究資金を集める ・大学院進学者への金銭的なサポート	若手教員の申請書提出のサポートを強化する 大学の学費の補助をしてもらう 助成金等を知るためのまとめサイトを作成してもらう

2. 個人のキャリアデザイン

【キャリアプランA】

時期	研究能力を活かしたキャリアデザイン？	どこで
5年後	留学して、自分の可能性を広げる。 基礎研究だけ→ドライな研究も行えるようにする。	海外（米国？） 大学
10年後	臨床現場の薬剤師の研究をサポートできるようにする。 6年制薬学部卒の薬剤師の1つのモデルケースとなれるようにする。	大学・臨床現場 薬剤師
20年後	臨床現場で見つけたクリニカルクエスチョンを基礎研究の手法で解決し、臨床現場に還元する。 6年制薬学部の発展に貢献する。	臨床現場・大学 薬剤師

【キャリアプランB】

時期	研究能力を活かしたキャリアデザイン？	どこで
5年後	研究職として勤務し、プロジェクトリーダーを担う	製薬企業
10年後	MSL に転職 or キャリア変更し、プロジェクトを一任されるようになる	製薬企業
20年後	管理職にキャリアアップ。女性が働きやすい環境づくりに尽力	製薬企業

【キャリアプランC】

時期	研究能力を活かしたキャリアデザイン？	どこで
5年後	英語のスピーキング能力を伸ばし、新薬の臨床開発のグローバルスタディに携わる。	臨床開発のグローバル治験チーム
10年後	グローバルスタディのチームリーダーになる。	臨床開発のグローバル治験チーム
20年後	後進育成、海外で仕事をする	臨床開発のグローバル治験チーム

第3部「将来の夢につなげるキャリアデザイン」

グループ：2C

1. 資質・能力や環境に関する課題への対応

当グループでは、第二部「研究に求められる資質・能力と環境」をテーマにしたディスカッションにおいて、研究を遂行するにあたって実験計画に基づいた実験量の確保とそれに必要な体力、および他研究者とのコネクションの形成能力が研究における資質・能力として最重要であると結論に至った。この資質や能力を獲得するために、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力の向上、実験の遂行を通じて問題解決能力や計画力を獲得すること、研究課題に対する探究心や断続的に探究できる環境構築が研究を進めるにあたっての課題として表在化した。

これらの課題を克服するために、以下の対応策が議論を通じて挙げられた。

(1) プレゼンテーション能力

自身の研究テーマをより魅力的に伝えるプレゼンテーション能力は、学会等を通じたコネクション形成につながるため、獲得すべき能力である。

プレゼンテーション能力を獲得するためには、いくつかのステップを踏んで漸次的に醸成させることが有効であると考えられる。まず、第一ステップとして、研究室内におけるディスカッションやセミナー発表を通じ、共通したテーマについて研究する研究者に分かりやすいプレゼンテーションができるよう励む。第二のステップとして学会のポスター発表を通じて同じ領域で研究している研究者に理解してもらえるようなプレゼンテーション能力を獲得する。ポスター発表では口頭発表と比較して簡易にコミュニケーションがとれるため、コミュニケーション能力を醸成させる場としては最適であると考えた。更に、他者のポスター発表に対する質問を行うことでも自身の考えを伝えるトレーニングとなると考えられる。

これらの段階を踏むことでより自身の考えをより魅力的に伝えることのできるプレゼンテーション能力が身につくと考えた。

(2) 問題解決能力

上記のディスカッションを通じて他者の問題に対する考えや問題解決に向けたアプローチを学び、吸収することで自身の問題解決能力向上につながると思う。そのため、研究室内におけるより身近かつ気軽なディスカッションを積極的に行うことで問題解決能力向上につながると思った。また、自身の研究テーマ以外の課題に対するディスカッションを頻繁に行うことで、課題解決に向けたアプローチを増やすことができると考えた。

(3) 探求心と探究できる環境の構築

研究課題に対する一定の成果を得るためには課題に対する探究心は必須である。そのためには、研究の経過を他人に共有することで自身の研究のポジションを客観的に知り、モチベーションを向上させることは有効な手段の一つであると考えられる。

更に、自身の探究心を満たすためには研究環境を整えることが肝要である。具体的には、研究費助成事業に積極的に申請し、自ら研究費を獲得することで研究環境を豊かにすることが最も有効な手段であると考えられる。

2. 個人のキャリアデザイン

上記のディスカッションで挙げた獲得すべき資質・能力を備えた想定で、それを生かした自身の5年後、10年後、20年後のキャリアを各々仮想した。

以下には各々が仮想したキャリアデザインの概要を列挙する。

- 5年後
 - ・学会発表や論文投稿を通じて研究実績を重ねる。
 - ・学校薬剤師として小中学校で積極的に講演し、担当する小中学校との関係を構築する。
 - ・ポストを得て自身の研究を展開する。
 - ・他領域にまで研究領域を展開することで新たな知識・技術を獲得する。

- 10年後
 - ・海外留学を経ることで言語の壁によるコミュニケーション能力の制限を解消する。
 - ・臨床現場で必要とされる知識や能力を獲得する。
 - ・こどもの生活環境に密着した研究を行う。
 - ・大学外での仕事を積極的に行うことで薬学の宣伝・アピールを行う。

- 20年後
 - ・学生の指導に注力する。
 - ・基礎研究と臨床現場の橋渡しとなる。
 - ・横断的な研究からより専門性の高い研究を行う。
 - ・薬学教育に従事する。

キャリアデザインの特徴として、自身の研究の専門性に基づいたキャリアデザインと、より広く領域を拡大するキャリアデザインの大きく二つに分かれた。また、後継の薬学研究者の教育に従事するキャリアが特徴的であった。更に、自身の研究キャリアと私生活の両立についての議論がなされ、価値観の拡充につながった。

第3部「将来の夢につなげるキャリアデザイン」

グループ：2D

1. 資質・能力や環境に関する課題への対応

第2部「研究に求められる資質・能力と環境」のディスカッションにおいて、意見が多かった「資金調達が不足している」「雑務に追われるなど、研究に割ける時間が少ない」「他職種・他世代とのコミュニケーションの不足している」の3点に絞って、議論を進めることとなった。

「資金調達が不足している」に関しては、「研究の魅力を伝える・アピールする力を涵養する」「他分野との共同研究ができる環境・意識が大事」といった意見が挙げられた。これらの実施するために必要な環境として挙げられた意見は、「実績に関係なく研究費助成に気軽に応募できるシステム」や「論文や申請書作成(英語など)を手助け」であった。これらは、組織に変更を希望する点であるが、研究者自身に対応可能な項目としては、「金銭負担の少ない研究を実施」し、業績などを作成する努力が必要であるといった議論がなされた。その中には、本来の自身が実施を望まない研究である可能性も意見としては出たが、自身で立ち上げた研究であれば、問題なく実施できるとの意見があった。

続いて、「雑務に追われるなど、研究に割ける時間が少ない」に関しては、対応策として「人手が解決できる・人を雇う」や「後輩に仕事を割り振る」と意見があった。「後輩に仕事を割り振る」に関しては、学生であり、人手を解消する目的としては適切でないと考えた。人手や仕事としてではなく、あくまでも学生の教育や成長を促すという観点を忘れずに、適切に実施していく必要がある。業務の効率化など、各自で努力していく必要性についても意見が挙げられた。

最後に、「他職種・他世代とのコミュニケーションが不足している」については、話しかけやすい雰囲気を作ることや、話す機会を設けるなど、お互いの理解や努力が必要であるといった意見が多く、参加者の多くがコミュニケーションについて非常に重要な項目であると感じていることが伺えた。自身としては、アンガーマネジメントなど自分の心理状態をコントロールすることも重要であり、これらの修得は精神的な成長にもつながるため、各々の努力も必要であると感じがあった。また、本ワークショップのような異分野交流であったり、他大学の学生と交流の機会を求める意見も多かった。

2. 個人のキャリアデザイン

まずは、各自で「5年後」「10年後」「20年後」のキャリアデザインについての書き出しを行った。次に、各自考えたものをグループ内で共有した。

各自のキャリアデザインについては、「5年後」「10年後」「20年後」のいずれにも共通した基となるキーワードが存在していたのが印象的であった。キーワードとしては、「業界への発展」「薬剤師教育」「日本発信の研究」といったものがあり、それらを根底においたキャリアデザインが構築されていた。

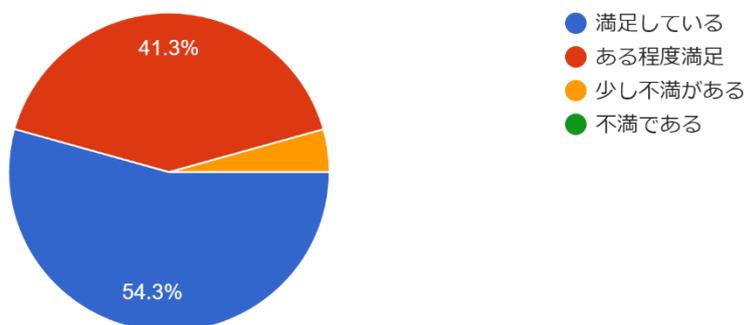
また、「ワークライフバランス」も重要であり、賛同する意見も多くあった。また、それらを踏まえて再度キャリアデザインを構築していく必要があると感じた。

参加者アンケート結果

参加者アンケート結果

【質問 1-1】 ワークショップは満足できる内容でしたか？

46 件の回答



満足している: 25 人 (54.3%)

ある程度満足: 19 人 (41.3%)

少し不満がある: 2 人 (4.3%)

不満である: 0 人 (0%)

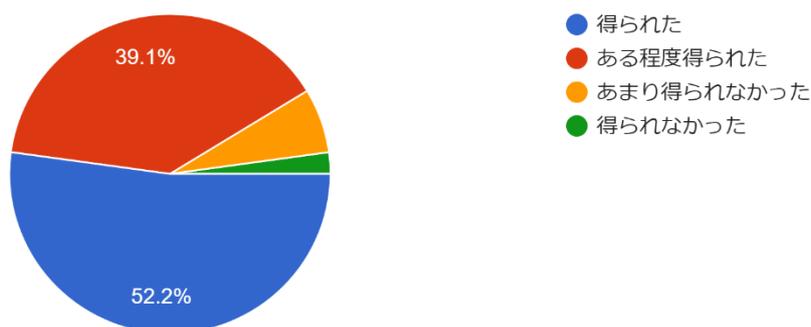
【質問 1-2】 質問 1 に関して、その他ご意見等ございましたらご自由に記述してください。

- ・5 人でのディスカッションがオンラインでは難しかった。研究者は皆さん忙しいのでオンラインが妥当であるとは思いますが、個々の回線の都合などで会話が円滑に進まない場面があった。1 グループの人数を減らすか、薬学会年会の前日などに開催することで対面を実現するなどしてほしい。
- ・有意義な時間ではあったが、さすがに長いと感じた。
- ・博士課程学生と接する機会がほとんどないため、同じ博士課程の学生と話をすること自体大変刺激になった。キャリアについて時間をとって考える機会を頂けて感謝している。
- ・他大学との交流や大学院事情が聞けるのは貴重な経験だった。ただ時間や日程が改善していただきたい。
- ・ワークショップの内容自体には満足させていただいております。しかし、参加者等の設定について意見を述べさせていただきたく存じます。今回は学位取得者(大学助教)といった立ち位置で参加させていただいたのですが、グループワークなどで大学院生と同じグループでの活動は平等な関係になりにくく、議論が大学院生目線になりがちでした。学位取得者としても今後のキャリアパスの議論をしたいところでしたが、立ち位置が変わると、同じグループワーク参加者であるにもかかわらず学位取得者から大学院生へといった流れができてしまい、後進の育成といった面では参考になりましたが、自身のキャリアへの直接的な気づきといった面では若干物足りなさを感じてしまいました。こういった点としてはタスクフォースの協力者の方とも役割が重複してしまったようにも思えます。大学院学生が学位取得者と交流することは非常に大事ではあると思いますので、一堂に会する機会にご賛同いたしますが、グループワークのグループ分けなどは立場の違いで明確に分けてしまってもよいのではないのでしょうか(前半の world cafe は混合で、後半の GW では立場別など)。大学院生はグループ内ではタスクフォースの協力者の方と議論し、またそれとは別に学位取得者グループの発表を聞くことで大学院学生が学位取得者の考えを知ることができるのではないのでしょうか。また学位取得者としても、それぞれがより似た立ち位置で議論を進められるのではないのでしょうか。
- ・討論の時間をもっと長くしてほしい。

- ・大学院生と学位取得者を同一グループにまとめなくても良かったのではないかと思います。学生には学生ならではの悩み・考え、教職員には教職員ならではの悩み・考えがあるかと思いますので、あえて別々のグループにしてその差を考察するのも興味深かったかと感じます。
- ・アイスブレイクタイムをはじめ、博士取得者、院生でもディスカッションしやすい内容で大変良かった。
- ・様々な環境下にある方々と意見交換ができ、非常に満足しております。
- ・これまでこのようなワークショップに参加する機会がなかったため、とても貴重な経験になりました。
- ・充実した1日を送ることができました。
- ・他大学の博士課程の学生さんや助教の先生方と交流できて有意義な時間でした。
- ・他大学の学生との交流は視野が広がり、刺激的でした。
- ・普段の生活では同世代の大学院生や学位取得者の方と関わる機会が少ないので、様々なテーマを通して交流することができ、視野が広がりました。
- ・同じアカデミアへ進むことを志している学生と議論出来て良い刺激を受けた。

【質問 2-1】 研究に求められる資質・能力と環境について新たな気づきが得られましたか？

46 件の回答



得られた: 24 人 (52.2%)

ある程度得られた: 18 人 (39.1%)

あまり得られなかった: 3 人 (6.5%)

得られなかった: 1 人 (2.2%)

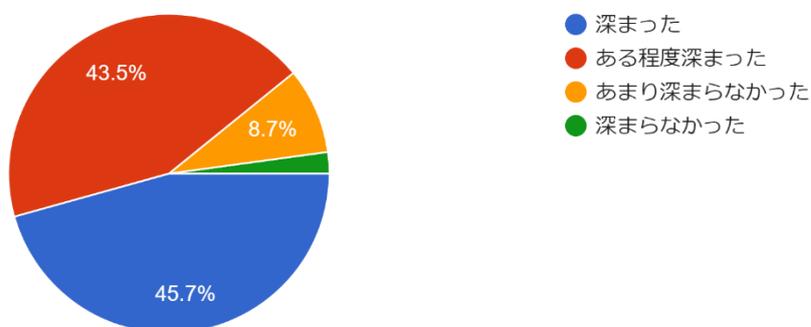
【質問 2-2】 質問 2 に関して、その他ご意見等ございましたらご自由に記述してください。

- ・各グループが自由に意見を出せていてよかった。視野が広がった。
- ・グループディスカッションでは様々な経歴を持った方がいらっしゃり、自分にない視点で研究に求められる要素を話し合うことができたため、満足している。
- ・改善策の模索など研究者に必要なことの成長につながる。
- ・どの参加者も同じような意見を持っていたので、それを知る良い機会になりました。
- ・資質と能力は共通する項目も多く、特にコミュニケーション力は必要との意見に納得しました。環境については、研究環境のみならず家庭環境も影響が大きいと思いました。
- ・今の自分に求められている資質・能力が備わっているのか、何が足りないのかを再確認するよい機会になりました。

- ・マインドマップを初めて作成し、気づきが得られた
- ・参加者から出る意見にあまり新規性は見出せませんでした。タスクフォースの先生方のお話は自分では思いつかない視点でのお話もあり興味深かったです。
- ・皆似たようなニーズや不満を持っていることが共有できた印象です。
- ・今回のワークショップを通して新たに気づきを得たことは、助成金申請書の記載や後輩・学生指導の際にも研究に向き合うときの考え方を生かせるということです。
- ・自身が考えていることと同じような考えを持っていることに気づいたり、自分の気づかなかった視点からの考えを聞けたりして、新たな気づきを得るきっかけになった。

【質問 3-1】 今後のキャリアについて考えが深まりましたか？

46 件の回答



深まった: 21 人 (45.7%)

ある程度深まった: 20 人 (43.5%)

あまり深まらなかった: 4 人 (8.7%)

深まらなかった: 1 人 (2.2%)

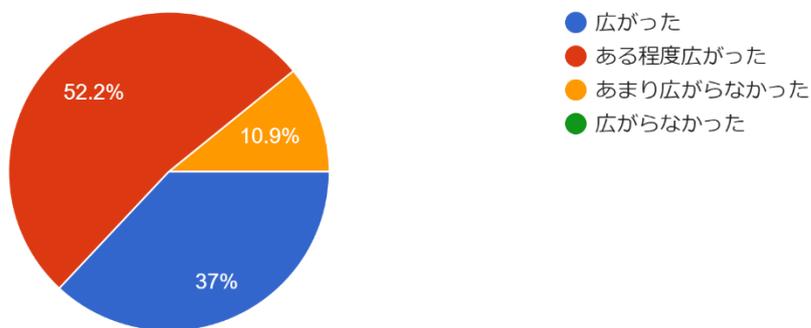
【質問 3-2】 質問 3 に関して、その他ご意見等ございましたらご自由に記述してください。

- ・参加者のバックグラウンドを理解するのに時間がかかった。他グループの参加者については全く分からなかった。4 年制か 6 年制かと、現職についての情報が参照できたらよかった。
- ・皆さん将来への不安があるのか、具体的にこれをして、これになりたいとおっしゃる方が少ないように感じた。博士課程の人数が足りない理由が出ていたと思う。我々はこれからの世代のロールモデルになる必要がある。しかし、まずは自分の将来を設計できるようにならねばならないと思う。すでにキャリアを積まれた先生方の体験談などあればキャリアの考えも深まりそうと感じた。
- ・これまでは自分自身の将来について、漠然と「職種は何であったとしても業界の発展に貢献したい」という思いしかもっていませんでした。ワークショップにて将来のキャリア設計を、5 年後・10 年後・20 年後と具体的にやったことで、この職種で本当に自分のあるべき姿になっているか、本当に自身の能力を生かして業界の発展に貢献したことになるのか、と考え直すことができました。特定の職種を目指すことを決めたわけではまだありませんが、キャリアを「具体的に」考えることができたことは自身にとって大きな進歩になりました。
- ・モチベーションにつながる。

- ・どのような意図での設問か少々わかりにくい部分があったように感じます。第二部から第三部への流れが唐突だったと思いました。
- ・班員がたまたまみなアカデミアに残り研究を続けたいという進路であったのでよりキャリアについて具体的に話せることができた。ただ、企業志望やその他の選択肢を有している方がいないこともあり、分野に偏りを生じたような印象を受けた。もし、可能であれば班を組む際に事前アンケートなどで将来志望などについても記載でき班構成に役立てていただければと思う。
- ・アカデミックでは今後不安を抱えている方が多い気がしました。また、近年では医師と同様に、臨床現場においても学位取得者が活躍する環境が進んでいると感じました。
- ・まだ漠然としたビジョンしか持っておらず、そこまで深く将来について考えたことがありませんでした。今回のような機会を設けていただくことで、何となく目を背けていた部分とも向き合うことができました。
- ・他人のキャリアデザインを聞くことで、自分の将来像が明確になってきた
- ・様々な環境の中で博士課程を過ごされたからこそそのいろんな意見もあり刺激的でした。
- ・学位取得者の方と交流できたことで、そのキャリアを選んだ場合にどのような道が開けるのか、どういった生活になるのかを考えることができました。
- ・第3部にて今後のキャリアプランを実際に書き出すことで、これまで漠然と考えていたキャリアに対して考えを整理することが出来た。

【質問 4-1】 今後のキャリアについて考えが広がりましたか？

46 件の回答



広がった: 17 人 (37.0%)

ある程度広がった: 24 人 (52.2%)

あまり広がらなかった: 5 人 (10.9%)

広がらなかった: 0 人 (0%)

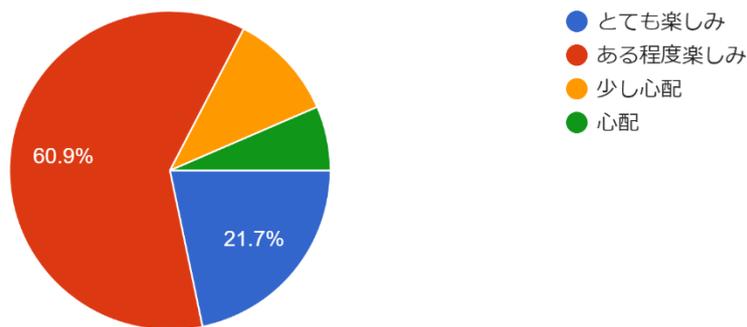
【質問 4-2】 質問 4 に関して、その他ご意見等ございましたらご自由に記述してください。

- ・既卒の方が大学教員ばかりだったので、企業の方もディスカッションに参加していただきたかった。
- ・具体的なキャリアを考えていた方がグループにおられ、その方々のお話は私が選択しなかったキャリアだったため、新しいキャリアのルートを知ることができた点が良かった。
- ・博士号取得後、教員として大学に残ってからの生活について伺うことができました。他では滅多に知ることができないので大変良い機会になりました。

- ・ワークライフバランスにおける結婚・出産の影響や見通しについてより考える必要があると実感させられた。
- ・後輩や大学院生にどんな道があるかを示しやすくなった。
- ・具体的に5年・10年・20年後とプランすることによって、自身の考えを改めてまとめることができました。
- ・他の方のキャリアビジョンを聞いて、自分が想像していなかった方面への進む道や可能性について、新たに気づくことができ選択肢が増えたように感じました。
- ・他人の考え、目標を聞くことで、キャリアについての考えが広がった。
- ・色々な先生の意見を聞いて選択肢が広がりました。
- ・自分とは異なる領域の研究者が、キャリアについてどのように考えているか知ることができ、参考になりました。しかし、それを自分に置き換えた場合、様々なライフイベントを迎えて生活と両立することは難しいと思いました。
- ・第3部にて他の人が考えるキャリア像を見聞きすることで別のキャリア形成についても考えることが出来た。

【質問 5-1】 これからのキャリアが楽しみですか？

46 件の回答



とても楽しみ: 10 人 (21.7%)

ある程度楽しみ: 28 人 (60.9%)

少し心配: 5 人 (10.9%)

心配: 3 人 (6.5%)

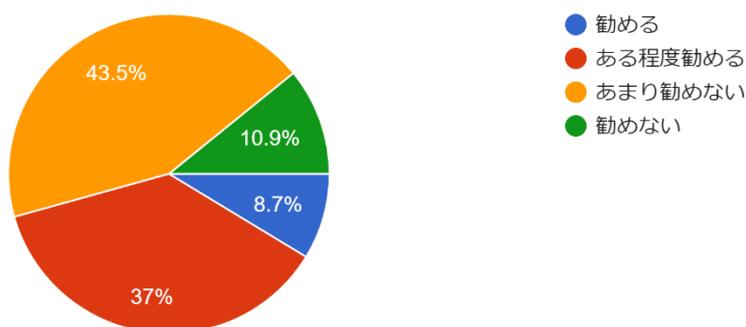
【質問 5-2】 質問 5 に関して、その他ご意見等ございましたらご自由に記述してください。

- ・自分が博士号を取得して社会に出た後、博士取得で培った能力をしっかりと発揮できるのか(発揮できる環境を自分がきちんと選べるか)に関しては依然として大きな不安があります。この不安はおそらく、自分が納得した環境に落ち着くまでずっと消えないのかなと思っています。
- ・学位取得はあくまでもスタートであり、今後も研究を継続しキャリアを活用していく必要性を、改めて実感しました。
- ・楽しみもありますが、残念ながら不安の方が大きいように思います。どの職業でも当てはまりますが、求められる能力はもちろんのこと、タイミングやチャンスといった「運」も大切になると感じています。今後の人生でそういった幸運を上手く掴み取れるか心配です。
- ・研究は大変な時期も来るかと思うが、この WS により、自分のキャリアのためにも頑張ろうと改めて思えた。

- ・私は他の先生方のような行動力を持ち合わせていないため不安なところもありますが、勇気をもつことはできました。
- ・ワークショップ参加後の現在も、学位を生かした仕事ができるか、そういった仕事は生活と両立できるかという不安があります。しかし、今回、同じように不安に思っている方と交流できて、少し心強く思いました。
- ・自分と同じようにアカデミアを志していることから、アカデミアに残って以降も交流・意見交換が出来るであろうため。

【質問 6-1】自身のキャリアを後輩に勧めますか？

46 件の回答



勧める: 4 人 (8.7%)

ある程度勧める: 17 人 (37.0%)

あまり勧めない: 20 人 (43.5%)

勧めない: 5 人 (10.9%)

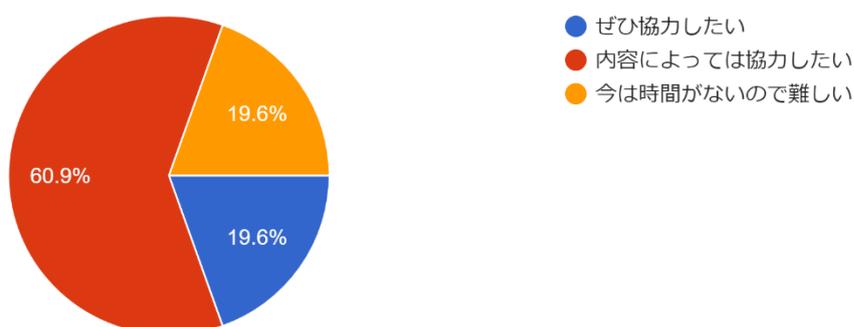
【質問 6-2】質問 6 に関して、その他ご意見等ございましたらご自由に記述してください。

- ・博士課程への進学は、研究活動を通じて自分の好きな分野を深く突き詰めたり、研究室内で学部生を統率したり、学会で他研究者と交流したりと、薬剤師としてすぐ臨床に出た場合にはできない経験が豊富にできる点で魅力的だと思っているし、自分自身がこの進路を選んだことは全く後悔していません。しかし研究活動は想像以上に過酷な「課金」「融通」レースという印象を持ちました。実験動物の飼育一つだけでも費用がかかり、それを大学から割り当てられた費用や自らの助成金申請で賄い続けなければならないのは大変です。また飼育場所の激しい奪い合いもあり、ポスト同士の力関係を痛感する出来事もたくさん経験しました。何でも環境のせいにする「親ガチャ」という言葉は嫌いですが、研究活動にも残念ながらそのような側面もあると思います。よって研究室の環境にかかわらず、努力を止めず研究を続ける強い興味や意思をもつ後輩でないと勧める可能性は低いです。逆にそういう意思を持った後輩には絶対に博士号の生活が合っていると思うので、ぜひ博士号を取ってほしいと思います。
- ・大学院生の待遇(特に金銭面)を改善していただければ強く勧める。
- ・参加者の学生さん達はとても優秀で、今後を期待されている方々なのだろうと感じました。このような方々のそれぞれの活躍を楽しみにしています。
- ・今後は、臨床系でも学位が必要な時代になると実感しています。

- ・自身のキャリアが必ずしも万人にとって良いものではないと思っています。一つの道として提示したり話題にしたりすることはあっても、自分から勧めることはないです。
- ・研究に興味がある後輩には自分のキャリアを勧めてもいいが、研究に興味がない後輩には勧めないと思います。
- ・現状ではやはり苦勞に対するメリットが分かりにくく、気軽に他人に勧められる道ではないと感じます。
- ・色々な可能性を考えたらうで学位取得を目指すのであれば、全力でサポートしたいと思います。
- ・現状、アカデミアを取り巻く環境を考えるとまだ後輩たちに自分と同じキャリアを進めることは難しいと再認識した。アカデミアに進む研究者の待遇や仕事量がある程度改善されない限り、「心の底から研究・後進の育成が楽しく、かなりの覚悟をもって飛び込める人」でないと本業界を安易に勧めることは難しいと感じた。

【質問 8-1】 薬学教育委員会の「薬学生の大学院進学促進事業」に関連した企画が将来開催された場合において、ご協力いただけますか？

46 件の回答



ぜひ協力したい: 9 人 (19.6%)

内容によっては協力したい: 28 人 (60.9%)

今は時間がないので難しい: 9 人 (19.6%)

【質問 8-2】質問 8 に関して、その他ございましたら自由に記述してください。

- ・大学院に進学したあとにどんな生活が待っているのかに関してはなかなか話を聞く機会がなく、薬学生には謎に包まれた世界のような印象を持たれているかもしれません。少なくとも普通に就活しているだけでは情報を得にくいと思いますし、大学院進学を決めていた自分も最後には恐る恐る進路を選択しました。「大変」「研究漬け」だけではない、普段の生活についても気軽に知ることができる内容になると良いですね。
- ・都心に住んでいないため、オンサイトでご協力できることが少ないかもしれませんが、できる限り協力させていただきたく存じます。
- ・是非とも協力させていただきたいです。
- ・学部生向けのワークショップに参加させていただいた時から、大学院進学希望率の低さを強く感じておりました。ぜひ協力したいです。

・自分が大学院進学について現状よりポジティブに考え、キャリアプランやキャリアが安定できた際には、一つの例として協力できることがあれば参加したいと思います。

【質問 9-1】(博士取得者限定)薬学教育委員会の「若手博士および大学院生のキャリアサポート事業」に関連した企画が将来開催された場合、ご協力いただけますか？

46 件の回答



ぜひ協力したい: 4 人 (8.7%)

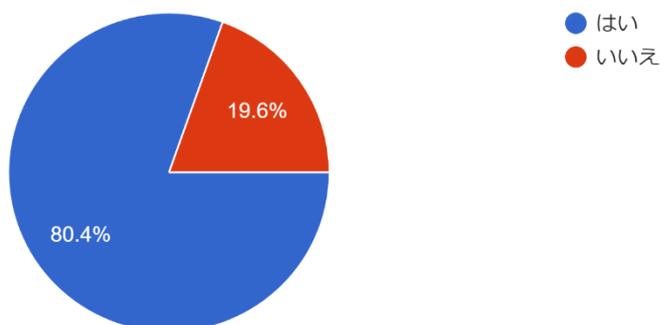
内容によっては協力したい: 15 人 (32.6%)

今は時間がないので難しい: 2 人 (4.3%)

現在、博士課程在学中につき、該当しない: 25 人 (54.3%)

【質問 10】本ワークショップ終了後も、参加者同士の交流を希望されますか

46 件の回答



はい: 37 人 (80.4%)

いいえ: 9 人 (19.6%)

【質問 11】日本薬学会および薬学教育委員会へのご意見やご要望がございましたら、ご自由にお書きください。

- ・この度は貴重な機会を頂きありがとうございました。6年制卒博士課程在籍者として、4年制卒の方々の研究能力をうらやましく思っていました。それぞれに強みと弱みがあり、互いに手を取り合うことが重要であると認識を改めることができました。
- ・お忙しい中ご準備頂きありがとうございました。有意義な時間でした。”

- ・学部生から学部長クラスまで、幅広い薬学者が平等に対話できる WS があると、より今の時代に合った薬学教育の立案ができるのではないかと考えます。
- ・好きな研究を好きなだけ続けられる環境があればいいなと思います。
- ・薬学会年会における分野ごとの日程をローテーションしてほしい。化学系であるが、毎年年会最終日なので学会に行くことが困難になる。
- ・11/12実施のワークショップに対し、11/27に報告書等に関するメールを頂きましたが、締め切りは12/4です。その間に、参加者への報告書の確認なども含まれており、時間的にこの期間では難しいスケジュールではないでしょうか。ワークショップでもタスクが多いという話が出ておりましたので、もう少し早くにメールを送付していただくなど、配慮していただけると助かります。グループの変更もありましたが、事前に連絡はありませんでした。
- ・開催時間をもう少し短くしていただけると助かります。
- ・この度は貴重な機会を与えてくださり、心より感謝申し上げます。
- ・この度は貴重な機会をいただきまして、誠にありがとうございました。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。
- ・ご意見いただけるタスクフォースの先生方が各グループ2人もいてくださったことは心強かったですし、貴重なお話もお伺いできてよかったです。ありがとうございました。
- ・一点、長井記念薬学研究奨励支援事業について要望を伝えさせてください。当日岩淵先生のご発表にありましたように、薬剤師としての臨床経験を有する薬学研究者 Pharmacist scientist の養成も今後の薬学教育ならびに薬剤師養成教育には必須と考えます。私自身、社会人大学院生でして、普段は大学病院の薬剤師として常勤で勤務し、余暇に博士課程の研究を行っています。自分が選んだ道とはいえ非常に厳しい環境と感じています。それに加え、昨今の物価高や機材の高度化が原因で、研究費との兼ね合いで断念する実験も多く、研究費不足が悩みの種の一つとなっています。それを打開すべく複数の民間グラントにも挑戦しましたが、実力不足もあり厳しい壁でした。複数の申請先を検討する中で、真っ先に学振が候補として上がりましたが、常勤職についているものは応募不可となっており、申請すら行うことができません。現状、長井記念薬学研究奨励支援事業も社会人院生は応募不可で、支援の対象が違うとはいえ非常に残念だと感じていました。もし、長井記念薬学研究奨励支援事業に生活費支援の部門だけでなく、研究費支援の部門(社会人院生・薬剤師など)などのカテゴリーがあれば、臨床と研究を両立している薬剤師、すなわち将来の実務家教員の卵のような存在へダイレクトに支援できるのではないのでしょうか。また、グラントを勝ち取った経験がアカデミアへの定着促進にもつながるのではないかと考えます。この点、是非御一考いただければ幸いです。どうぞよろしくお願い申し上げます。
- ・ワークショップ終了後のフリートークの時間ではワークショップ中よりさらに詳しい話ができ、「仲間」が増えたように思えて大変嬉しく感じました。未来をとっても広い視野でみている方、同様の悩みを抱えた方と交流でき、今後のビジョンについて考えるきっかけになりました。この度は貴重な機会をいただきまして、誠にありがとうございました。
- ・この度は、非常に有意義な時間を過ごすことが出来ました。このような機会を企画・紹介していただき、ありがとうございました。

参加者印象記

参加者の印象記

- 本ワークショップに参加した印象について、まず初めに進路の多さを感じた。ワークショップに参加された先生方は現時点で大学にポストがある方が多かったが、そこに至る過程は多種多様あり、中には臨床や企業で経験を積んだ方もいらっしやった。本ワークショップに参加するまで進路について狭い範囲でしか考えられていなかったが、ディスカッションを重ねることによって、自分の進路はある程度保証されていて、幅広い職種に挑戦できる可能性を感じた。また、同じような境遇の大学院生の将来のキャリアに対する考えを聞き、アカデミアを志望している人が思っていたよりも多く驚いた。現時点ではあまりアカデミアに進むことは考えていないが、薬学領域におけるキャリア選択は自由度が高いことを痛感したので、もしアカデミアに進みたいと思ったならば戻ることも考慮に入れて今後のキャリアを決めていきたい。
- ワークショップでは様々なバックグラウンドの研究者が集まり、現状や今後のキャリアについて活発に議論を交わした。興味深かったのは、4年制卒と6年制卒の違いだ。それぞれを比較すると、博士課程入学時の研究キャリアに約2年差があり、6年制に比べると4年制の方が研究能力が醸成されている印象を受けた。一方で、6年制卒業者は薬剤師免許を所持しており、実務経験を持つ方が多かった。6年制が制定される以前は、どちらも同じ薬学部で基礎と臨床を一人でこなすことも可能であったことを考えると、現在の薬学は、基礎と臨床を結ぶ立場の人材が少ないように思う。また同じ6年制大学で医療関連の基礎研究を行う医学部は、臨床研修の修了まで基礎研究に触れる機会に乏しいためロールモデルに適さない。「基礎と臨床」を繋ぐために、薬学という分野独自の新たなシステムの開発が必要だと感じた。
- 同じようなキャリアを持つ学生が集められるかと思っていましたが、想定とは異なり、様々なキャリアを積まれた方々によって本ワークショップは構成されていました。こういった私が直接関わる方が少ない方々との交流は非常にためになる点多かったです。また、最も関心に触れたのは「指導」という観点について皆さん議論されていたことです。自分自身の研究やお金の話がメインだろうと思っていた私にとって、本ワークショップの中でも特に貴重や視野を与えられました。本ワークショップで得られた経験をこれからのキャリアに生かしていけるよう努めたいと思っています。一方で、今後のキャリアをしっかり見据えられている方と、まだまだ自分の今後のキャリアを見据えることができない方が二極化しているように感じました。経験豊富な先生方からのキャリア体験談などがあるとよりキャリアへの考えも深まり、良かったかなと思いました。
- 本ワークショップでは、自身と境遇の近い方々と共に博士学生としての悩みについて共有し合い、その解決方法について議論ができたため、非常に有意義な時間となりました。当初は将来のキャリアに関する議論が中心になると予想していましたが、意外にもスモールグループディスカッションでは後輩育成や資金面に関する話題で盛り上がりました。私も普段から、より良い後輩の指導方法について考えることが多いため、たくさんの学びを得る機会となりました。資金面については生活費だけでなく、研究資金を得るために日頃から心掛けていることを互いに共有することができました。またキャリアデザインについては、グループ内にアカデミア・企業・病院薬剤師を目指す方がそれぞれいたため、各視点からの考えを知ることができ

ました。私は将来アカデミア研究者を目標としていますが、本ワークショップで出会った皆様と協働できる日が来ることを心待ちにしています。

- 「研究に必要なもの」をテーマにしたグループディスカッションでは、自分と同じように資金と時間の面で頭を抱えている人が多くいることを知りました。さらにここではその解決策についてもグループで話し合うことができ、「実験にお金がかかるなら、お金のかからない（データ調査など）をして実績を積みばよい」などたくさんの意見が出てきて、課題を自分なりに積極的に回避・解決する考え方を学ぶことができました。その後のキャリアデザインでは課題に対する対応策からつなげてその後の進路を具体的に考えることができたのが非常に良い機会でした。参加者の一人からでた「結婚」「育児」などのライフイベントとの両立という視点はとても大切だと痛感しました。このワークショップだけでは「この職業に就く」など特定の進路を決められたわけではありませんが、自分が培った能力を適切に発揮しきちんと業界に貢献していくためには何を考えて選択すべきかということ具体的にイメージするきっかけになりました。
- 同じ立ち位置である大学院生の意見を聞くことができ、普段から漠然とある不安を少し解消することができました。また、私たちの少し先にいる博士取得者の意見も聞くことができ、参考になりました。
- これからどうありたいか、そのために何をするかなど自身のキャリアプランに関して腰を据えてじっくり考えることができた。また、博士課程学生や学位を取得された若手の先生などとディスカッションし目指すキャリアについて共有することで、自分もこうありたいなど別視点からの見つめ直すこともでき、大変有意義な1日を過ごすことができた。日頃研究の狭間に自分の将来についてぼんやりと考えることはあるが、具体的に5年後や10年後、20年後にどうなっているかを想像することにより、将来なりたい自分の明確なイメージやそのために達成したいマイルストーンなどについて考え、設定する良い機会となった。私の研究室には自分以外博士課程の学生がおらず、他の博士課程学生と接する機会がなかなか持てずいたため、ディスカッションはもちろんアイスブレイクの際にも他の学生や先生と話をし悩みなどを共有できたことも大変貴重だったと考えている。
- 本ワークショップを運営していただいた先生方に感謝申し上げます。薬学部6年制卒業後の大学院生のキャリアを知る貴重な経験をさせていただきました。
本ワークショップに参加していた大学院生は、ほとんど6年制卒業後の大学院生だったかと思えます。その方々の考えているキャリアは、薬剤師だけではなく企業を目指す、アカデミアに残るなど多種多様でした。似たようなキャリアになると思っていたため、非常に驚きました。ただし、5年後のキャリアは「現在の環境で頑張る」という内容で皆さん一致していたと思います。また、博士課程の大学院生を増やすことに関するグループディスカッションでは、私自身にはないアイデアがたくさんあったことが印象に残っています。さらにタスクフォースの先生方からもご意見をいただき、白熱した議論となりました。

最後になりますが、長い時間グループディスカッションをしたグループの先生方に感謝申し上げます。

- 他大学の博士課程の学生とディスカッションを交えて交流したのは今回が初めての経験で、このワークショップを通じて様々な発見や刺激を得ることができました。特に、「研究に求められる資質・能力と環境」の議論において、現在の博士課程に在籍する学生が考える課題として自分自身の研究能力向上だけでなく、薬学研究者が減少傾向にあることに危機感を覚えていることが印象に残っています。確かに私が所属している研究室も大学院生は私一人だけです。研究者の減少は教員だけでなく大学院生も感じ取るようになってきているのかもしれませんが、私はこれまで将来の進路についてそんなに深く考えたことがなかったのですが、今回のワークショップによって少しだけやりたいことが見つかったような気がしました。来年ももし今回のような企画が開催されたら是非参加させていただきたいです。
- 貴重な機会をいただきありがとうございました。第1部の学位取得と将来の夢では、短い時間でしたが自分の研究分野とは異なる分野の先生方とお話することができ、非常に有意義な時間を過ごすことができました。研究に関する資質や能力を考えた第2部では、いずれのグループでも生まれ持った資質は関係なく、本人の研究に対する熱意や継続して研究する姿勢が大事だと発表していたことがとても印象的でした。また、昨年とは異なり今回のワークショップでは博士取得者に加え大学院生も参加されていたこともあり、第3部では参加者の先生方の多種多様なキャリアプランを聞き取ることができ、改めて自分自身のキャリアプランを考える良い機会になりました。また今回のワークショップで先生方とお話する中で、多くの大学院生が他大学の院生と交流する機会がないと聞きました。これから大学の垣根を越えて、今回のような取り組みがますます広がっていけば良いと思います。
- 第二部、第三部とさまざまなバックグラウンドを持つ方とグループで話し合うことができ、自分では思いつかなかった意見や新しい考え方を得ることができました。また、発表ではグループごとに最も大事にしていることが異なっていたり、共通点なども見つけることができました。自分のグループでは出てこなかった意見や異なる視点を知ることができ、非常に勉強になりました。今回キャリアデザインワークショップに参加したことで視野を広げることができたので今後の研究活動やキャリア形成に活かしていきたいと思います。また、私の大学院では博士進学者は少ないため、境遇が近い参加者の方々とお話することができて非常にうれしく、貴重な経験ができました。
- 同じ世代同士でのグループディスカッションは初めてであったため、貴重な経験をすることができた。人手や研究費の不足については、本学が卒業研究に尽力していないためであると考えていたが、4年生の大学であっても、同様の課題を抱えているとのことで、我々で研究環境を改善すべく様々な方策について議論できたことは、今現在の自身の研究室の環境改善に直結できる解決案を得ることができたため、非常に有益であった。私自身、大学院進学については、指導教員からの紹介によるところが大きく、初めから社会を変えるための研究成果を志していたわけではなかった。しかしながら、グループディスカッションの中で、将来の夢や自身

の目標を共有したことで、より明確なキャリアデザインを行うことができた。「研究」を介して目標達成のためプランを研究室の後輩たちとも共有することで、大学院進学を志望動機を抱いてもらいたいと期待している。

- グループワークでの研究者に求められる資質・能力と環境については、バックグラウンドによって抱える課題が違う一方で、後進育成という観点ではどの大学も共通した課題が挙げられていたことが非常に面白く感じました。また皆さんとお話する中で、今の自分に足りないものも出てきました。それを踏まえて今後のキャリアを考えていくことができたので、将来こうなるためには今どうしたらいいのかを深く考えるいい機会になりました。また、今回自身の大学からは1人の参加ということもあり、気負わずグループの方々とコミュニケーションをとることができたのもとてもいい経験になりました。私は周囲に博士課程の学生がほとんどいないため、同じ境遇の方々と先輩方とお話すること自体がとても貴重でした。またその中で、研究室の学生のトップとしてどうあるべきかを考えることもでき、今後の活動に大いに生きてくると感じました。
- 今回のワークショップでは他大学との大学院生の現状とその未来について本音で語り合うことができた。また大学院生になった方々がどのように大学院への道を知ったかを聞いた。大半の場合が所属講座の教員からや先輩から知ったというのが多かった。これは、これからの大学院生のリクルートにも役立つことであった。さらには、現状では大学などでの大学院への情報の取得方法が少ないことが分かったため、改善していく必要がある。
- 薬学といったくくりで同世代の博士（予定者）と交流する機会はなかなかない機会であり、いい経験ができました。4年制を卒業した自分としては、6年制卒業の方々がどのように考えているのかを知ることができ、幅広い考えを吸収することができました。ご講演なども大変興味深く聞かせていただき、6年制の博士取得者が少ない現状など理解が深まりました。一方で、相対的には充実しているとされた4年制の博士取得者が求められる役割などについてもよりお話を伺ってみたいと感じました。臨床と基礎を繋ぐことなどは薬学として大事な展望であるとあらためて理解しましたが、薬学といえば薬剤師ありきともされがちな状況で臨床現場には立つことの無い4年制の立ち位置について薬学としてどのようなものを求めているのか今後ぜひお話を伺う機会がありましたら幸いです。
- 6年制薬学部卒業後に博士課程へ進学する人が非常に少ない中、立場や年齢は違えどそれぞれの目標に向かって志高く研究に取り組む参加者の方々と、将来について議論をできた本WSは私にとって大きな励みとなりました。また、参加者自由交流では他のグループのメンバーともゆっくりお話をして他大学の研究室の様子などを知ることができ、とても有意義な1日となりました。議論の中で印象的だったのは、皆さんのキャリアプランに少なからず「薬剤師」という選択肢があったことです。一方で、薬剤師免許をもつ研究者（もしくは博士号をもつ薬剤師）として独自の何ができるのかは課題として残り、私たちはその道を切り開くことができる存在なのだと自覚しました。今は自分の目の前の事で精一杯になってしまっていますが、この頑張りが少しでも今後の薬学の発展に役立つことができたらと願うばかりです。最後になりま

したが、このような貴重な機会を提供して下さった関係者の皆様、そして議論を共にした参加者の皆様に心より感謝申し上げます。

- 今回のワークショップでは、ディスカッションを通して薬学研究者を目指す上での課題や業界を取り巻く環境について他大学の大学院生や博士取得者との意見を交換すると共に、自分自身の今後の大学院生活やキャリアプランを考える有意義な時間となりました。今回のSGDでは特に環境に関する議論が活発に行われました。研究者を目指す学生が少ない現状について課題や対応策の討論を重ねるなかで、学部4年生を対象とした後進育成についてとても印象に残りました。自分自身のスキルアップ、キャリアデザインだけでなく、後輩を育成し仲間を増やすことで業界全体を盛り上げていく姿勢に感銘を受けると共に、これからは自分が手本になる立場だと実感し身が引き締まる思いでした。最後になりますが、このような機会を設けて下さった日本薬学会関係者の皆様、タスクフォースの先生方に心より御礼申しあげます。
- 大学院生および博士取得者のためのキャリアデザインワークショップにさせていただきありがとうございました。様々な気づき将来への課題を見つけることができ、有意義な時間を過ごすことができたと思います。ワークショップに参加し、議論の場においても活発な意見交換、様々な角度からの問題へのアプローチがあり、問題解決能力の高さ、全国の大学院生の意識の高さを実感しました。自分とは違った考え方を聞けるいい議論の場でありました。博士取得を志す理由経緯も様々で、取得後の展望も異なる人々の考えを聞くことで柔軟な考え方や何に対して問題意識を持っているのかを知ることができ今後の自身の課題として学生生活を送っていきたいと思います。最後になりますが、このような貴重な機会を設けて下さった関係者の皆様とワークショップ参加者の皆様に心より感謝申し上げます。
- この度は貴重な機会を設けてくださりありがとうございました。他大学の先生や大学院生と話すことで、何をモチベーションにして研究をしているか、将来設計をどのようにしているかなどのお話を聞くことができました。これらのお話は大学院生の少ない大学に所属する私にとって貴重な体験でした。また自分には持ち得ない視点からの意見などもあり有意義な時間だったと思います。この先のキャリアに関して真剣に考える機会がなかったので、自分の今後について考える良い機会になりました。On siteでの学会開催が増えている昨今、他大学の方との交流を得られにくくなっていますので、このような場がより多くの学生や若手研究者に提供されることを強く願います。
- 様々な背景を有している学生および学位取得者が、学位取得を目指した理由および大学院での研究活動に関することを議論した。World Caféによってお互いの緊張が解れつつ活発な議論をすることができたと思う。第1部「学位取得と将来の夢」のテーマに関して、ラウンド1では「学位取得を目指した理由」を議論した。研究を通して最先端な知見を創出する重要性を改めて考えることができた。ラウンド2では「大学院での研究活動について」を議論した。研究だけに没頭できるのは、大学院生の特権だなと、アカデミアの立場になって思った。ラウンド3では、「将来の夢」を議論した。将来ビジョンが明確であると、今後のキャリアデザインが立てやすくなると実感した。第2部「研究に求められる資質・能力と環境」のテーマでは、

様々な問題を解決するための努力が必要になると感じた。第3部「将来の夢につなげるキャリアデザイン」のテーマでは、社会問題に対するアンテナを張ることが重要であると感じた。

- 私は、自分の将来に漠然とした不安を抱えてはいたものの、キャリアで深く悩むようなことはなく、楽観的に過ごしてきました。本ワークショップの参加者は、自身のキャリアに明確なビジョンを持ちながら、そこに向かって既に具体的な行動を起こしている方々ばかりだろうと考えていたため、私とは考え方が大きく異なり上手く馴染めないのではないかと心配しておりました。しかし、実際に蓋を開けてみると、私と同じような背景の方々が多く参加しており、自分だけではないという安心感を得ただけでなく、共通の悩みに対して異なる視点からの向き合い方を学ぶことができました。具体的なキャリアをデザインする機会だけでなく、似通った境遇の人達と時間をかけて話し合う機会を持てたという点で、本ワークショップは私にとって非常に有意義なものでした。本ワークショップを通して手に入れたコネクションを、今後も生かしていければと考えています。
- 1日を通して、他大学の博士課程に所属している学生のキャリアに対する考えを知れてよい機会となった。本学では、ほとんどの学生が就職を選択する中で、将来博士課程に進むことを少しでも選択の1つとして考えてもらえる人材が増えるといいなとSGDを終えて思った。
- 「大学院生および博士取得者のためのキャリアデザインワークショップ」に参加したことは、自身のこれからのキャリアについて考えるいい機会になった。博士課程への進学は、純粹に取り組んでいる研究を続けたいという理由で決めたので、先のキャリアなどに関してはほとんど考慮していなかった。今回のワークショップに参加し、他大学の大学院生や若手研究者の方々とグループワークに取り組む中で、それまではっきりとしなかった自身のキャリアに関しての考えを具体化できたように思う。また、ワークショップの中ではキャリアに関してだけでなく、研究活動について、各々の考えを交わすことができた。様々な意見を聞くことができ、今後の研究を進める上でのモチベーションに繋がった。
- 業務と研究の両立が難しく、キャリアデザインに様々な悩みを抱えた状況でワークショップに参加をしましたが、自身が抱えているキャリアや研究などの悩みをほかの参加者も同様に抱えていることが印象に残りました。また、同じような境遇の参加者の将来の夢や、参加者の抱くキャリアデザインを聞いたことに、大変刺激を受けました。私のグループは、大学教員を目指す方が多いグループだったので、他のキャリアデザインを持った方と話す機会がなかったことが残念でした。ワークショップへの参加を通して、様々な考え方や価値観に触れたことは、改めて将来を見つめ直す機会にもなり、大変有意義な時間を過ごすことができました。今後のキャリアデザインを考える機会を与えていただき、関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。
- 博士課程で頑張っている方々と交流ができて、良い機会になりました。貴重な機会をありがとうございました。バックグラウンドは異なりますが、多くの方が、研究が好きという気持ちを持っていて安心しました。博士課程に進学してくれた方々は研究へのモチベーションも高いと思いますので、このような学生さんたちが活躍してもらえるような機会がもっと増えたら

良いなと思いました。新しい研究アイデアや進路・キャリアなどを活発に議論できる場があると、薬学会の若手が一致団結して切り拓けるものがあるかと感じます。また、足りない事柄として「時間・人手・お金（研究費&生活費）」の話題が出るのは、定番の流れかなと感じました。これらの不足感や不満感に対しては長年議論されていることかと思しますので、多くの人に助け船を出せる方法が見出されると良いなと思います。今後の展開を期待しています。

- 在籍研究室には自分以外に院生がいないことから、他大学の院生および若手研究者の多くの方々と第一部から大学院進学を志した理由や研究内容について雑談を交えながら交流できたことはとても良い機会であった。また、第二部・第三部を通して、研究者としての能力・資質で足りない部分や1人では気づくことができなかつた自分の課題を客観的に分析することができる時間でもあり、研究を行う上での大きな壁が、国立・私立、社会人博士課程どの分野であろうと、みな抱えているものが資金や時間、人材の確保など多くが共通していたのが驚きであった。と同時に、自らの悩みが決して自分ひとりの悩みではないと感じ安心感が芽生えた。ワークショップ終了後も、参加者との研究はもちろん薬剤師としての現在の状況、必要とされるスキルについてなど様々な交流ができ、有意義な時間であった。開催にあたり、関係者の皆さまには厚く御礼申し上げます。
- 大学院生、若手の先生方と将来のキャリアについて深くディスカッションできる非常に良い機会だった。大学院生は博士号取得後アカデミア、臨床系、メーカーなどまだ幅広く選択肢が存在しており、先生はアカデミアに残る、海外で研鑽を積むなどそれぞれ多種多様な将来像を共有できた点がおもしろかった。研究に求められる資質・能力と環境について考えを列挙すると、専門分野や所属や立場が違っても共感する内容がほとんどであったが、同じように悩んでいる人がいるということはその課題への対応は非常に難しいものであると感じた。最後に、漠然としたキャリアデザインではなく、5年後、10年後、20年後に分けて言語化したため、今の自分に足りない資質に気づくことができ、努力しようというモチベーションアップにつながり、キャリアデザインの再構築のきっかけにもなった。
- ワールドカフェやマインドマップ作成などお互いに話しやすい環境が整っており、リラックスしてグループディスカッションを行うことができた。今回のワークショップは、他大学の学生や若手教員と交流できる貴重な時間であると同時に、自身の将来を考える良い機会となった。私の大学では博士課程の学生が多くないため、今後のキャリアについてイメージしづらく不安を感じていたが、本ワークショップで多くの同年代の方々を知ることができ、ため込んでいた将来に対する不安が少し解消できたと感じる。ワークショップで交流した他分野の学生や若手教員とのつながりを大切にして、今後の研究を頑張っていきたい。
- 今回、「大学院生および博士取得者のためのキャリアデザインワークショップ」に参加させて頂き、様々な環境下の皆様と意見交換ができ、大変有意義な時間となりました。「研究に求められる資質・能力と環境」の議論では、資質と能力は共通する項目も多く、特にコミュニケーション力は研究環境をも広げるため、重要との意見に納得しました。また、資質や能力があっても環境（資金や時間）が整わないケースが多いと感じました。例えば、私自身は大学からの

給付型奨学金があり恵まれた環境にありましたが、まだまだ全国的に資金的サポートが十分な状況ではないと思いました。「将来の夢につなげるキャリアデザイン」については、学位取得はあくまでもスタートであり、今後のキャリアに活用していく必要性を改めて実感しました。また、以前は学位取得＝（イコール）アカデミアという印象でしたが、近年では臨床現場においても学位取得を必要とする環境が進んでいることを感じました。最後になりましたが、このような素晴らしい機会を与えてくださった関係者の皆様、参加者の皆様に、心より御礼申し上げます。

- 今回、大学院生および博士取得者向けのキャリアデザインワークショップに参加するよう、教員から提案されました。学会以外では他大学の薬学部の学生と交流する機会がなかったので、私に自身にとって非常に有益な経験になりました。Zoom を利用した開催により、地方にいても簡単に参加できる点はありがたかったですが、オンラインミーティングに不慣れであるため、他者とのコミュニケーションが難しかったと感じました。また、発表や報告書の作成が必要だったため、慎重でおとなしい意見が出やすく、アイデアが狭くなってしまったような印象を受けました。予算がかかっているので、報告書の作成が必要なのは理解できますが、午前に行ったアイスブレイクのように学生や教員とのアイデア交換の場を設け、自由に議論するだけでも充分であったと思います。
- これまでオンラインでのワークショップには参加した経験がなく、少し緊張していましたが、アイスブレイクから皆さんと少しずつ話していくうちに緊張が解れていきました。今回は「大学院生および博士取得者のためのキャリアデザイン」がテーマということで、恥ずかしながら私自身そこまでしっかりとしたキャリアを描いたことがなかった部分もあり、本ワークショップはとてもよい刺激になりました。第 2 部では、「研究はひとりで行っているのではない」ということを改めて再認識しました。独りよがりにならずに周りに配慮しつつ、他者とのコミュニケーションを図ることが、研究者として大切だと感じました。第 3 部では、グループメンバーの様々なキャリアビジョンを伺って、それぞれ自分なりの目標や課題をしっかり持っていることに感心しました。私も今一度気を引き締めて、しっかりと前を見据えて研究に取り組みます。今回は貴重な場を設けていただき、誠にありがとうございました。この経験を今後のキャリア形成に活かしていこうと思います。
- 他大学の大学院生や博士取得者である先生方と交流し、オンライン上で半日以上お話することができて、今後の研究生生活も頑張る励みとなった。他大学の大学院生や先生方と、話すことができるのか不安であったが、まずは Ice Break で、各自が旅人となって、グループを訪問し、自由に会話することができ、緊張がとけた。いろいろな方と話すことで、その人の考え方を聞き、いろいろな考えを知るいい機会となった。そして、各グループに分かれ、円滑に研究に求められる資質・能力と環境についてディスカッションをした。そのグループディスカッションでは、マインドマップを初めて作成した。グループで、協力し、充実したマインドマップを作成することができた。また、将来の夢につながるキャリアデザインをそれぞれが発表し、他人の夢も聞くことによって、どのようなキャリアデザインを描いているのかを知ることができ、

大変勉強になった。このワークショップを通じて、人脈を増やすことができ、同世代の大学院生の方も多く、いろいろな意見を聞くことができ、大変勉強になった。今後もこのような他大学の大学院生や先生方と交流するようなWSなどが開かれたら、積極的に参加したいと思った。

- 他大学の博士課程の学生や助教の先生方と一緒にワークショップを行えたことで、他大学の先生方と交流を深められた点、いろんな方のキャリアに対する価値観や考えを共有できた点で非常に有意義でした。第1部では他大学の先生方と博士課程進学の原因や、現在行っている研究について、奨学金制度についても伺うことができ、楽しいひとときでした。第2部の研究に求められる資質・能力と環境については、あまり新規性のある考えを得ることはできませんでしたが、第3部では、様々な環境に置かれている先生方のキャリアデザインについてお聞きでき、自分には考えつかないようなキャリアデザインもあり刺激的でした。アカデミアに残りたいと思っておられる先生が多かったので、そちらの方面でも先輩方のお話をお聞きできて興味深かったです。
- 参加させていただいた大学院生および博士取得者のためのキャリアデザインワークショップは、非常に有意義なイベントであったと感じています。このワークショップでは将来の目標について深く考える機会を提供していただきました。特に、研究に必要な資質や能力、そしてそれを支える環境に関するグループディスカッションは、新たな課題に気づくことができました。各グループからの発表を通じて、研究を進める上での共通の課題や異なる視点が明らかになり、非常に有益でした。また、個々のキャリアデザインについて考え、それを発表するセッションでは、自分自身のキャリアパスに対する新しい洞察を得ることができました。参加者同士の意見交換から生まれる学びや、互いに刺激し合う雰囲気は、今後の研究とキャリア形成に大いに役立つと感じています。このような充実したワークショップが今後も続くことを期待しています。
- 博士号を取得し、教員をされている先生のお話を聞くことができ、大変有意義であった。また、学会ではあまり接点がないような分野の他大学の同年代の学生と交流する機会を得られ、勉強になった。
- 本会には大学院に在学する学生が自身のキャリアについてどのような想い、考えを持っているのかを知る良い機会だと思い、参加した。グループディスカッションでは、はじめに「研究に求められる資質・能力と環境」について各自の考えを述べたが、院生と教員間での意見の相違はほとんど無かった。研究に求められるもの（好奇心を持ち続けること、問題解決能力、忍耐力、他分野との交流など）について多くの場合、共通認識を有していることが分かった。一方、指導力や表現力といった新たな視点での意見も出た。後継者(大学院生)の存在は円滑に研究を遂行する大切な要素であると考えられる。しかしながら、後継者不足は深刻な問題となっている。我々の業界がハードワークの印象が強く(卒業研究などで間近で見れる)、学生にとって魅力のある職業になっていないことが原因であると推察される。このような観点からも上記の能力を若いうちから意識的に養うことができれば、後継者(研究に興味を持つ学生)を増

やすことに繋がると考えた。本会では各々のキャリアデザインについて語り合う中、薬学部の進学希望者の少なさについても共通課題として認識しており、議論が盛り上がった。この点についてもっと深掘りする機会があると良い。

- 将来のキャリアデザインについて、病院や企業、アカデミアなど様々な進路を希望する人の意見をきくことで自身のキャリアの参考になりました。博士課程進学後の進路については、進路が狭まる・ポストが少なく厳しいというイメージが強く、自分の進路について不安を抱えていましたが、これからのキャリアで挑戦したいことを楽しそうに話す参加者の方々をみて、自分の将来について前向きな気持ちで、もっと具体的に考えていきたいと感じるきっかけになりました。同時に、参加者の方の研究に対する高いモチベーションや熱い思いに触れ、自分ももっと頑張ろうという気持ちが強まりました。普段、様々な分野や立場の人と交流する機会はありませんいため、今回のワークショップのような機会は自分にとってとても良い刺激となりました。今後もこのような機会があれば積極的に参加したいと思います。貴重な機会を頂きありがとうございました。
- 私が所属している大学は大学院に進学する割合は少ないので、大学院進学者や博士取得者と価値観を共有できる貴重な時間でした。特に第3部のキャリアデザインについては、博士取得後の進路について目標を立て直すいい機会となりました。
- 同じグループ内に様々なバックグラウンドを持った学生・先生方がいらっしまったため、自身のキャリアに対して新たな価値観を見出すことができた。
- 他の大学の院生の方とキャリアについて話し合う機会がこれまでなく、今回のワークショップに参加させていただき、我々の進路の可能性を示していただいたり、同じような状況の院生とディスカッションをしたりできたことは、自分の進路を考える上で、大変有意義な場を与えてもらえたと感じております。一方でやはり学生ということもあり、臨床の場（病院や薬局）の想像がついていない印象もあり、進路を考える上では研究を進めるための技術・知識だけでなく、薬剤師という職業についても知る場が必要であると感じました。研究・仕事だけでなく、プライベートに言及されているような場もあり、ライフプランを考える上で進路は重要ではありますが、そういったことに関しても実は知識が必要なのかと考えさせられました。非常に学びが多いこのような会に参加させていただき、大変感謝しております。
- 博士課程修了後のキャリアについての漠然とした不安があり、さらに今後のキャリアの具体的な例等も少ない状態でワークショップに参加した。参加したことにより、自分が今後どのような道があり、さらに、同年代・博士課程在学中の他の方がどのような考え方を持っているかをキャリアだけでなく研究マインドについても知ることができ、大変有意義なwsに参加できたと感じている。
- 博士修得後の進路として、アカデミアにとどまらず、医療機関など、臨床を意識したキャリアパスを想定する方も多く、薬学の多様性を感じました。学問の広さが薬学の魅力だと思うので、今後も博士修得者同士の横の繋がりを大切にしていきたいと思います。

- 今回の WS では、今後のキャリアや研究に対する向き合い方など様々な面において頭を悩ませていた私にとって、他の大学院生の皆さんの考え方をお聞きすることができ、皆同じような苦境の中で日々頑張っているのだという部分を共有することができ、今後の心の支えとなる経験となりました。今置かれている環境で出来ることを精一杯取り組んで参りたいと思います。今回企画いただいた日本薬学会の先生方、関係者の皆様、誠にありがとうございました。
- 今回参加させていただいた『大学院生および博士取得者のためのキャリアデザインワークショップ』では、『研究マインドを活かすキャリアについて議論し、将来の夢の実現につなげよう！』というテーマに沿って World café や SGD にて議論しました。普段の大学院生活では交流機会の少ない同世代の大学院生や学位取得者の方、所属や専門分野が異なる方とディスカッションし、研究に対する考え方やキャリアプランについて新たな視点をもつことができました。不安があった今後のキャリアについても、柔軟に発想できるようになったように思います。また、自分と似た悩みをもつ方とも情報交換し、心強く思えた点が特に印象に残りました。自分の研究内容や 20 年後の未来を考えるきっかけにもなり、大変有意義な時間を過ごすことができました。最後になりますが、ワークショップ開催にご尽力いただきました日本薬学会ならびに関係者の皆様に、厚く御礼申し上げます。この度は貴重な機会をいただきまして、誠にありがとうございました。
- 本ワークショップに参加し、自分と同じようにアカデミアを志す人と議論・交流が出来て非常に有意義な時間だった。自分の周りでアカデミアを目指す人はほぼいないため、お互いのキャリアや夢・目標を聞くことが出来て、自分自身も頑張ろうと改めて思えた。また、互いに自分が所属している研究室や大学の実態について話すことが出来たことで自分の知らなかったことについても知ることが出来た。ワークショップでは、研究者に必要な資質・環境等に関して議論することで新たな視点を得ることが出来た。また、学部時代の講義でグループワークを行った時とは違って互いにしっかりとした考えをもって議論し合うことが出来たことも嬉しかった。第 3 部では自身の今後のキャリアについてスライドにまとめることでこれまで漠然と考えていたキャリアプランを整理することが出来た。また、他社のキャリアプランについても聞くことでまた違った視点を得ることが出来た。全体を通して本ワークショップに参加して良かった。今回交流できた学生とは今後も定期的に交流していきたい。
- 私は現在、院生が私だけの研究科に所属しているため、今回参加させていただいたキャリアデザインワークショップは、普段交流する機会の少ない同年代薬学博士課程の方とお話しすることができ、将来のキャリアについて考える非常に良い機会になりました。博士課程に進学したはいいものの、将来どんな選択肢があり、実際似ている境遇の方はなにになっているのか、また博士課程時代はなにになりたかったのかということがほとんど想像できずにいたため、最後の課題の「個人のキャリアデザイン」でみなさんの夢を実際にみて、正直みんなアカデミアに残るんだろうなと考えていましたが、そうではない方もたくさんいて参考になりました。

またディスカッションでは、初対面であるのにもかかわらず和やかな雰囲気では話が進み、課題解決もスムーズで、意外にも楽しい時間を過ごせたことを嬉しく思っています。今後もこのような機会があれば参加させていただきます。

2023 年度日本薬学会薬学教育委員会

- ◎中村 明弘 昭和大
石田 竜弘 徳島大院
大野 恵子 明治薬大
大山 要 長崎大病院
岸本 成史 昭和薬大
木下 淳 兵庫医大
座間味義人 岡山大病院
鈴木 小夜 慶應大
鈴木 匡 名市大
高橋 秀依 東京理大
武田香陽子 北海道科学大
辻 琢己 摂南大
徳山 尚吾 神戸学院大
前田 和哉 北里大
松永 俊之 岐阜薬大
輪千 浩史 星薬大

(◎：委員長)

発行 2024年1月

公益社団法人 日本薬学会 薬学教育委員会